

平成20年度

# 地域文化学 研究報告書

山形県立小国高等学校第1学年

## 学習の大テーマと指導教官

学習の大テーマ	大学指導教官	校内指導教員
① バイオディーゼル燃料を作ろう	山形大学工学部 大学院理工研究科 准教授 木島 龍朗 先生	(竹田 孝幸) 櫻井 早苗
② 舟渡の獅子踊りについて	山形大学地域教育文化学部 文化創造学科 准教授 鈴木 渉 先生	花輪 重聡
③ 民俗芸能・民俗行事・庶民信仰 ・伝統工芸	東北芸術工科大学 東北文化研究センター 准教授 菊地 和博 先生	阪野 保憲 (本田香奈子)
④ 小国の魅力を発信する	東北公益文科大学 公益学部 准教授 呉 尚浩 先生	伊藤美奈子
⑤ 近代小国の歴史・文化を探る ～昨年より深く掘り下げて～	米沢女子短期大学 日本史学科 講師 布施 賢治 先生	市川 光紀
⑥ 豊かな自然と小国の人々	山形短期大学 総合文化学科 教授 大川 健嗣 先生	舟山 健治
⑦ 保健医療福祉の連携	新潟医療福祉大学 健康科学部看護学科 准教授 三澤 寿美 先生	高橋 史

\* 地域の皆様からも、たくさんのご指導・ご協力をいただきました。ありがとうございました。

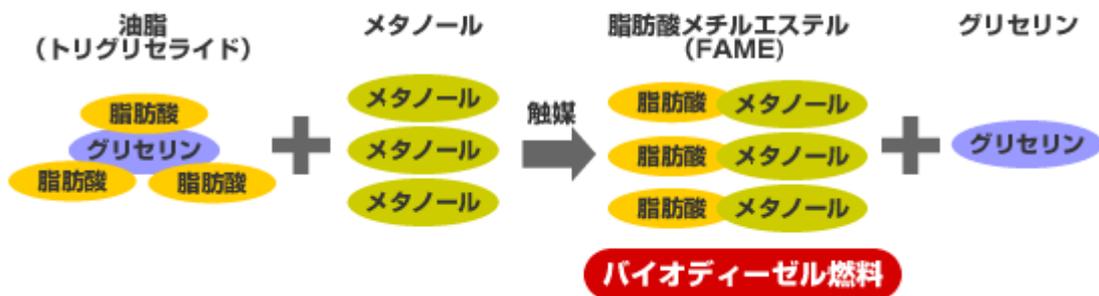
## 「バイオディーゼルって何？」

班員 高橋 昌史 齋藤 祐希 渡部 剛 田中 航平

### 1、BDF (Bio Diesel Fuel)

バイオディーゼル燃料(BDF)とは、軽油の代替燃料で、ディーゼルエンジンを有する車両、船舶、農耕機具、発電機等に使用されています。石油燃料(化石燃料)代替として使用することにより、環境問題やエネルギーの高い海外依存率等、様々な問題の解決策として現在世界中で注目を浴びています。植物性油や動物性脂をメタノールと反応させメチルエステル化したものがバイオディーゼル燃料です。バイオディーゼル 100%で使用される燃料油を「B100」、軽油に対して 20%混合した燃料を「B20」と呼んでいます。

#### メチルエステル化



### 2、BDF の利点

#### (1) 環境にやさしい

- ①そのまま捨てるとう環境汚染につながる食用廃油を再生するため環境負担を二重に軽減できる。
- ②BDF を使用時、排ガス中に小児喘息・アトピーの原因といわれる硫化酸化物を含まない。
- ③排ガス黒煙が軽油に比べて1/3~1/6に軽減される。
- ④CO<sub>2</sub>が軽油に比べて10%削減される。

#### (2) エンジンにやさしい

- ①BDF はどんなディーゼルエンジンにも改造することなく使用できる。
- ②BDF を使用した場合の燃費は軽油使用時とほぼ同じである。
- ③BDF は潤滑性を大きく向上させるため(65%)エンジンの負担が軽減される。

#### (3) 経費にやさしい

- ①従来の軽油に比べ安価で利用できる。

### 3、BDF の問題点

おもに BDF 燃料の固化や、発熱量が低い、フィルターにゴミが入る、天然ゴムを浸透し膨張させてしまうなどといったことがあります。そのほか、BDFの製造量の急増に伴ってBDF燃料は発熱量が低いため、原料を無駄にたくさん使ってしまうという問題があります。

バイオディーゼルは、原料の性状によって製品の性状が変化するため様々な問題があります。特に廃食用油を使用した場合、様々な油を混合して原料にするため製品にした際の品質管理が大変難しくなってきます。保存の場合も、軽油に比べると酸化する速度が速く、痛みやすいので注意が必要です。全米バイオディーゼル協会によれば、保存後六ヶ月以内に使用することが望ましいそうです。

### 4、海外・国内・県内の事情

#### ( i ) 海外の事情

ヨーロッパでは、2002年にバイオ燃料導入促進指令に従って、BDFを中心に導入が進んでいます。欧州全体生産量は80%です。ドイツでは、100%BDF対応車が市販されます。フランスは、最大のBDF生産工場を持っていますが、国全体の生産量は2001年減少傾向にあります。

現在、日本国内約300施設で作られるBDFは約4,000tと言われていますが、技術立国ドイツでは、既に1,040,000tものBDFが生産されています。同様にフランス348,000t、イタリア320,000t、デンマーク60,000tアメリカ84,000tと欧米各国で生産されています。精製は主にアルカリ触媒法を用いているようです。米国も含め、一般に給油する場合既にB10～B30%含有し販売されている国が多い様ですが、B100もあるようです。

CO<sub>2</sub>の環境への影響が憂慮されるなか、BDFは空気中のCO<sub>2</sub>を増加させることがないことから、欧州ではメルセデス・ベンツ、プジョー、ルノー、ワーゲンがディーゼル車の販売に力を入れています。乗用車やバス、トラックの他、船舶や軍用、農林業用機械や車両などにも広く使われています。

#### ( ii ) 国内の事情

BDFの使用で最も有名なのが京都市の公営バスやゴミ収集車であり、市民をあげての廃食用油回収を行い、原料を集めています。またこの動きは各都市に徐々に広がりを見せています。近年、軽油高騰の影響や排出ガス規制を受け、運送事業者でもBDFを使用する企業が徐々に増えてきています。

植物油脂の平成14年国内総生産量は約180万トンで、輸入油脂は約60万トンです。実際は国産原料からの油脂生産量は6万トンで、国内の総生産量に占める割合はわずか3%です。これに対し大豆などの原料を輸入し、それから搾油した生産量は約174万トンとなっており、事実上純粋な国内産油脂は2%に近くなっています。

#### ( iii ) 山形県内の取り組み

山形県でも運送会社や各自治体(幼稚園バスやゴミ収集車)で利用されているようですが、その利用率はまだまだ低い状況です。我々は山形県天童市にあるBDF 製作装置メーカーである株式会社エムエスデーを見学し、最新型のBDF製作装置を見てきました。純度が高く、低温時でも固まりにくいBDFを安定生成できるほか、温水を使った洗浄工程がないため廃水処理の手間とコストが不要であり、注目されています。

## 5、考察

現在地球の環境問題は深刻で、有害物質が少ない燃料が必要です。私たちは今回BDFについて調べ、BDFが環境にやさしい燃料であることを知ったため、将来環境にやさしいBDF車に乗ることでエコロジーにも貢献できるのではないかと考えるようになりました。

BDFについてはその品質やコストの問題などありますが、これからの社会全体にとって必要なものです。ヨーロッパではBDFの使用が少しずつ進んでいますが日本はまだまだです。今後国内・県内でのBDFの導入が進んでいくことが望まれます。

# 「バイオディーゼル燃料を作ろう！」

班 員 渡部 裕貴 見川 恒人 保科 俊貴

## ・バイオディーゼルを作る方法



### 準備品

#### 試薬（薬品）類

水酸化ナトリウム    メタノール    廃油（植物油）

塩酸

#### 器具類

ホットプレート    分液ロート    ビーカー    温度計

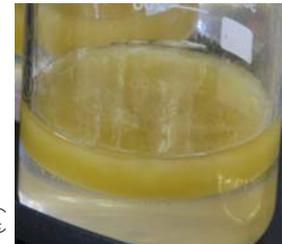
- ① 使い古しのサラダ油 120 g に水酸化ナトリウム 1 g とメタノール（15 ml）を混ぜてナトリウムメトキドを作ります。



- ② ①を瓶の中に入れホットプレートで60度になるまで約15～30分かき混ぜます。
- ③ しばらく静置するとグリセリンが分離するので上層の BDF と下層のグリセリンを分けます。



- ④ BDF の入った瓶の中に塩酸と水を入れかき混ぜます。しばらくおくと水と油が分離します。



- ⑤ 再度加熱して水を完全に蒸発させればバイオディーゼル燃料の完成です。

## ・結果

最初に作ったバイオディーゼルは残念ながら失敗してしまいバイオディーゼルではなく脂肪酸が完成してしまいました。

それは最初に水酸化ナトリウムとメタノールを混ぜる状態で苦戦してしまい空気と混ぜてしまったために脂肪酸になってしまったからだと考えられます。これを作るのにかかった時間は最初なので2時間半くらいでした。

2回目は、前とは違い1回作ってみたので意外とスムーズに進めることができました。完全な状態のものまでにはいきませんでした、本物に少し近付いたと思います。このときかかった時間は前よりもスムーズに進めることができたので2時間ほどでした。一人1瓶ずつ作りました。次ページ右の写真で4つのうち右の2つが私たちが作成したもので、左の2つは木島先生が専用の機械で作ったものです。



(失敗作)



(成功作)

## ・会社訪問

天童にあるバイオディーゼル会社を訪問して、最新型の機械でバイオディーゼルを作る場所を実際に見ることができ、3、5時間で透明であり臭いがしないものが出来ることがわかりました。ここでは2つのチームに分かれており、1つはバイオディーゼル燃料作成の機械を作るチームで、もう1つは環境のことを考えるチームです。

## ・考察

結果でも述べたように、この実験で最初に失敗してしまった理由は、廃油から BDF に完全に反応がいかなかったことや、塩酸の量が少なかったかたために残っていた水酸化ナトリウムで脂肪酸ができてしまったことなどが考えられます。したがって、廃油から BDF に完全に反応をいかせるようにし、塩酸の量も前より多くして脂肪酸ができないようにしました。これにより成功できたのでやはり失敗した原因は上記で述べたことであると言えます。

専用の機械で作った BDF は品質も高く、BDF 製造機械も高品質なものが日々開発されています。近い将来 BDF がもっと身近なものになるのではないかと期待できます。

## 「舟渡の獅子踊りについて」

班員 安部慎悟 沼澤強太 塩川静香 桃井愛恵  
舟山綾菜 宮野友里恵 舟山璃沙 和田朱里

### 1. テーマ設定の理由

私たちは、先輩方が昨年作成したレポートを見て舟渡の獅子踊りに興味を持ちました。そこで、舟渡の獅子踊りについて詳しく調べることにしました。

まず舟渡の獅子踊りが本当に、信州上田から越後を経由して置賜に入ってきたものなのかから調べることにしました。

### 2. 調査の概要

- (1) 舟渡の獅子踊りの起源について
- (2) 舟渡の獅子踊りと、上田小国との比較と共通性について
- (3) 舟渡の獅子踊りの意味について
- (4) 舟渡の獅子踊りの歌詞の意味について

### 3. 調査の結果

#### (1) 舟渡の獅子踊りの実態について

小国町役場のホームページ ([http://www.town.oguni.yamagata.jp/data/history/culture/funato\\_shishi.html](http://www.town.oguni.yamagata.jp/data/history/culture/funato_shishi.html)) によれば「天正10年(1582)、上杉景勝が上田の真田幸村を人質にとり、それを慰めるために、真田の父が上田近郊の獅子踊りを越後につかわしました。それを保護し藩内に奨励したのが、置賜地方の獅子踊りの起源とされている」とありました。

さらに、調べを進めていくうちに、獅子踊りの伝わり方が米沢から舟渡に伝わった説と五味沢から舟渡に伝わったという2つの説があり、どちらが正しいか判断できないという事がわかりました。

現在舟渡の獅子踊りは、

- 1、道おき
- 2、入場
- 3、はね太鼓
- 4、一番庭
- 5、庭ちらし
- 6、長唄
- 7、男獅子ぐるい
- 8、女獅子ぐるい
- 9、あそび獅子
- 10、引場
- 11、二番庭
- 12、男獅子ぐるい
- 13、女獅子ぐるい
- 14、あそび獅子
- 15、引場
- 16、三番庭
- 17、庭ちらし
- 18、男獅子ぐるい
- 19、女獅子ぐるい
- 20、花すい
- 21、引場

この順番で行われており、目的は、五穀豊穡です。使われている獅子は、三頭の獅子であり一番庭から三番庭まであります。

## (2) 置賜各所に伝わる獅子踊りの実態について

### ①長井市の獅子踊り

長井市の獅子踊りについては、慶長 6 年(1601)に直江兼統の家臣であった青木丹波守により伝えたとされているため、「置賜地方の獅子踊りの起源」が越後にあつたことをやや裏付けていることになるでしょう。

今日もなお、平山地区をはじめ、五十川、勸進代、川井、總宮神社などにそれぞれ獅子踊り保存会があり、長井市文化財保護条例(昭和 38 年)により保護されています。また、長井市立平山小学校には「平小獅子踊」があり、その動画も公開しています。

#### 小国町の獅子踊りと置賜各所に伝わる獅子踊りの比較

米沢から舟渡に伝わったという説は、上杉景勝が米沢に獅子踊りを伝えた年が「1582 年」(小国町 HP より)と「1587 年」(wikipedia より)の2つの年が出てきてつじつまが合わなかったというのが結果であり、この先調べる機会があるなら調べてみたいと思います。

### ②綱木の獅子踊り

今、山形に点在する獅子踊りの原点は、綱木と梓山が原点であると伝えられていますが、それを裏付ける記録等は残されていませんでした。

現在綱木で行われている獅子踊りは、平家の再興を祈るため獅子踊りをしたのが始まりです。

その後引き続き平家再興と五穀豊穰・大願成就とを天照皇太神宮・春日大明神・八幡大神に祈ったものと伝えられています。

二頭の牡獅子が一頭の牝獅子にからむ典型的な三頭一組一人立の獅子です。

踊りは「関東肥挾踊」「角田中村踊」「十七下り」の三曲からなり、一曲を「一庭」と呼んでいます。「関東肥挾踊」を寺の前で披露してから行列を組んで村中を廻ります。

廻り終わると寺に帰り、ここで「関東肥挾踊」ほか二庭が深夜まで踊りつづけられます。

これらの記録からは、町のホームページで述べている「上杉景勝が上田の真田幸村を人質にとり、それを慰めるために、真田の父が上田近郊の獅子踊りを越後につかわしました。それを保護し藩内に奨励したのが、置賜地方の獅子踊りの起源」とする説についての裏付けを取ることができませんでした。

#### 小国と綱木の共通点

- ・三頭の獅子で踊られていて、三番庭までである。
- ・獅子の造りが似ている。
- ・使われている太鼓が似ている。
- ・村廻りに似ているのがある。

### (3) 舟渡の獅子踊りと真田小県に伝わる獅子踊りの比較

真田の居城があった「上田の獅子踊りが伝わった」とされる、長野県上田には今日でもそのような獅子踊りが、実際にあるのかを調べることにしました。そこで、実際に現地に行くわけに行かないため、ホームページで調べることにしました。

調べてみると、以下のホームページがあり、信州には置賜と同じく「獅子踊り」が多いことが分かりました

「信州の三頭獅子」<http://senshohamada.hp.infoseek.co.jp/tosin-miksira-sisi.htm>

このホームページによれば、上田小県には15もの「三頭獅子」があり、置賜地方よりも多く存在していることが分かりました。とくに上田市西内の「高梨三頭獅子・ささら」の「道おき」と、舟渡の「道おき」も、並び方、等が下の画像と似ていました。



(小国の道おき)



(別所の道おき)

#### 一致点

- ・舟渡の獅子踊りと高梨三頭獅子の踊りの時の並び方や、獅子以外の笛や太鼓などの演奏が似ている。
- ・使われている楽器が似ている特に太鼓が似ている(絞め太鼓)

#### 違い

- ・三頭獅子の振り分け

舟渡 : 男獅子・女獅子・子獅子

頭の羽: 黒・黒・黒

別所 : 男獅子・男獅子・女獅子

頭の羽: 緑・緑・赤

- ・踊りの順番

舟渡 1、道おき 2、入場 3、はね太鼓 4、一番庭 5、庭ちらし 6、長唄  
7、男獅子ぐるい 8、女獅子ぐるい 9、あそび獅子 10、引場

11、二番庭 12、男獅子ぐるい 13、女獅子ぐるい 14、あそび獅子

15、引場 16、三番庭 17、庭ちらし 18、男獅子ぐるい

19、女獅子ぐるい 20、花すい 21、引場

別所 1、道行 2、振り込み 3、舞込み 4、無の部 5、かじり 6、岡崎  
7、骨なし 8、道行

- ・天狗が先導する

これらのことから上田小県に伝わる獅子踊りと、小国町にある獅子踊りは、獅子の形や歌い手などが、非常に似ている事が分かった。

#### (4) 舟渡の踊りについて

- ・歌詞にあるカタカナの部分は、笛や太鼓の音を表している。
- ・笛は楽譜などで伝わったのではなく、先代（師匠）から伝わったので、楽譜はない。

#### ひょっこについて

- ・呼び名は「めんすり」という。
- ・ひょっこをやる人はもともと獅子をやっていた人で、踊りが完璧でなくてはならないが観客などを盛り上げたり、獅子が踊りを間違っても視線がいかないようにふざけて踊ったりする。

また、獅子の手本のような存在である。

#### その他

- ・獅子の頭についている鳥の羽は、獅子に魂を入れるためにつけ、羽を付けている間は獅子を丁重に扱わなくてはならない。祭りが終わったら「羽根抜き」ということを行って、獅子の魂を抜く。そして、次の祭りまでゆっくり眠ってもらう。
- ・6番の歌詞については、昔と違ってきている。  
（左子獅子 右女獅子）  
る。文章に残っていないので、少しずつ伝わっていくにつれ、変わってきている。
- ・一番庭、二番庭、三番庭の「庭」とは、一つ一つの場面のことを言う。
- ・「ほめ言葉」も、ひょっこと同様、場を盛り上げるためのもの。例えば、「まとい持ち、から天竺のおつかいか、背が高くて、色白で日本一の色男」のようにそれぞれ述べていく。ほめていく順番は、「道おき」で歩いてくる順番でほめていく。しかし、「ほめ言葉」を言う人によって順番が違うので、これと決まっているわけではない。

#### 獅子踊りとともに伝わっていること

- ・権現講（ごんげんこう）という場所に秋とれた新米をおいてきて、春にもう一度行き米が虫などに食われていたらその年は凶作、食われていなければ豊作と云われている。今でも行っているが、人口の減少や、高齢化の影響もあり実際やっている人は少なくなってきた。

## 4. 成果や今後の課題

今回、獅子踊りについて調べて、ますます獅子踊りについて興味を持つことができました。調べて、舟渡の獅子踊りは五穀豊穰を願って行われているということや、置賜各所にあるも獅子踊りがあるということがわかりました。動きや衣装など、とても独特で、印象深かったです。

調べたことをもとにもっと獅子踊りについて詳しく調べて、最終的には自分たちで踊れるようにしていきたいと思います。

獅子の踊り方



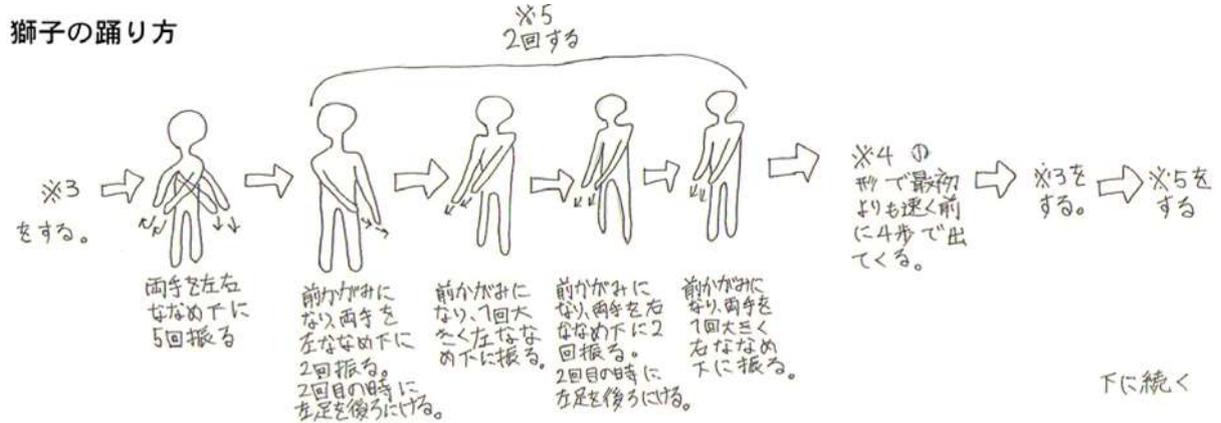
踊り子の踊り方



左

右

獅子の踊り方



獅子の踊り方



右

左

三番庭  
トロロロオン ニド トーヒヤラリデンドン  
トロロヒヤラルル ラーラーラー  
秋かぜの そよりーと吹く年は  
秋のいなはは ニド「やほで八石」  
ヒヤラルル ラーラ

## 市野々・下叶水の民俗文化について

年中行事班 佐藤ありか 徳岳梨沙 渡部美佳 安部暁彦  
伝承工芸班 齋藤 陽 安部成美 渡部拓也

### 1. テーマ設定の理由

昨年度「小国町を中心とした年中行事」をテーマに現 2 年生は取り組みました。「詳しく調べられなかった」との反省を踏まえ、今年はその内容を引き継ぎながらも地区範囲を狭めて、特定の地区にスポットを当てその背景も探してみたいと考えました。

調べる地区の選定：平成 2 年に建設着手（本体工事より 5 年）され横川ダムが小国町綱木箱の口に完成しました。またその一方でダム建設に伴い水没し廃村となった村があります。市野々と下叶水です。今回は、越後街道（13 峠）の宿場でもあったこの場所に着目し探っていきたいと思います。

### 2. 調査の概要

#### (1) 歴史的背景

①市野々と下叶水の関連の深いもの

#### (2) 年中行事

#### (3) 伝承工芸

#### (4) 現地巡り

### 3. 調査の結果

#### (1) 市野々の歴史的背景について

横川ダムに沈んだ市野々・下叶水の地、その背景を調べる為、今年 4 月 18 日にオープンした横川ダム広報交流施設「きてくろ館」に見学に行きました。そこで横川ダム管理事務所の高橋さんにお話を伺いました。

市野々の村は越後街道に沿って部落が並び、稲作が中心であった。土地に限りがあったため田が無くなることを心配し民家は増やせず、よって人口も増えなかった。市野々には 22 戸の部落があり、人口は 90～100 人くらい、宿屋を行っていたが、本職だったわけではなかった。蚕をやっていた家などがあつたが生活は質素であった。江戸時代後期、交通量が多くなり、昭和 30 年 2 戸増えて全部で部落は 24 戸になった。

#### ①市野々と下叶水の関連の深いもの

参考：きてくろ館「ふるさとへの想い(DVD)」

##### i. 横川ダム

昭和 42 年に発生した羽越水害を契機に災害の未然防止と発電等を目的とした施設。

##### ii. 飛泉寺

楠木正成の四男、正勝が建てた。出生（いづるぎ）の滝と呼ばれた滝があり、その滝が一番きれいに見えるところに飛泉寺を建てましたが、その後不幸にも 2 回の火事に見舞われた。田から焼けた地蔵様が出てきたそうで、その後復元され現在はさらしに巻いて東原にある。

### iii. 大銀杏の木

市野々を見守り続けてきた、市野々部落のシンボルであった大銀杏の木は、住民の人たちの願いで水没を避ける為、高台に移動した。飛泉寺を建てた正勝が、銀杏の木の枝を杖にしている、それを土にさしたところ芽が出て、立派な大木になった。とされている。

### iv. 石碑

市野々には、医者がないので、石碑に祈ったそうです。横川の谷間から参詣に出向く者もあったそうですが、石碑を通じて気持ちは常に身近なところに置きたかったものと思われます。その他、旅人が多いことで道中の安全も祈願していた。

### v. 済広寺（さいこうじ）

江戸時代初期の慶長年間(1596～1615)に米沢高岩寺の末寺として建てられ、市野々の飛泉寺とも関わりが深い。安置されている本尊阿弥陀如来巫像は、平安末期から鎌倉時代にかけての名作で、小国地域最古の貴重な文化遺産となっている。

下叶水では、本尊を見ると盲目になると言い伝えられていたため、その姿を拝見した人はほとんどいなかった。現在は下叶水の後方山手に移転新築されている。

### vi. 黒沢峠

黒沢峠は市野々に越えるための主な道の一つでした。安永4年(1775)の「伊佐領、市野々海(街)道一件留帳」によれば、小国郷の中心小国宿より白子沢、沼沢方面への道は、3箇所あったそうです。

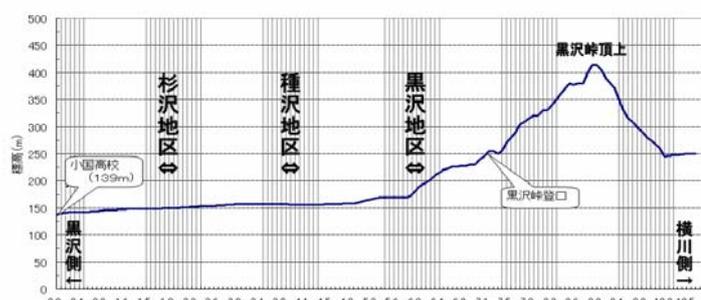
- ・伊佐領から箱ノ口、綱木を天難場から白子沢へと越える道
- ・伊佐領から箱ノ口・千野を経て市野々、桜峠越えに白子沢へ通ずる道
- ・小国から黒沢村、黒沢峠越えに市野々、桜峠、白子沢へと通ずる道

綱木から天難場を越える道は雪崩が多くあり、千野経由の遠回りとなるため、黒沢峠越えの道が次第にとられるようになった。

イギリスの旅行家イザベラバード女史が、この越後街道を下越方面から置賜盆地へと通過した際の彼女は、著書「日本奥地紀行」の中で、黒沢峠周辺の村やそこを通過する人々の様子を次のように綴っている。

【以下一部：男子の夏の服装はマロだけである。女子の服装はズボンをはき、胸を広げたシャツを着ている。昨夜黒沢に着いてみるとズボンだけに縮小していた。荷物の大半は牛や人夫が運んでくる。男と同様に女も重い荷物を運ぶ。この連中がかわいそうに大弱りの格好で喘ぎながら登ってくるのを見ると、気持ちが悪くなるほどである。】

これらの記述は百数十年前にもかかわらず、寒村の人々の生活がいかに過酷なものであったかがわかります。現在は峠道の散策を楽しめる黒沢峠まつりが毎年10月実施され賑わいを見せ、往時を偲びながら自然や歴史の理解を深める事ができる場所となっています。



(2) 市野々・下叶水の主な年中行事

①季節ごとに行事をまとめる。(月日は新暦に統一しています。)

市野々・下叶水歴史保存会 副会長 渡部錬太郎さんにお話しを伺いました。

春	5月5日 さなぶり	<p>・ほうの葉に、にまめとあられを包んだものを、(田植えも無事に終わりました) という意味を込め神棚にお供えしました。</p> <p>※田植えの終わったあと村の頭に代表者が休みをもらいに言いに行き村中で2日くらいの休みをもらいました。</p>
	3月中旬 木出し	<p>農作業の最初の仕事「堆肥運び」よりも、一足早くに行う「木出し」。各戸の囲炉裏やかまどで使う一年分の焚き木を部落ごとにみんなで協力して、国有林から払い下げられた山に切り出しに行き、雪の上をソリですべらせて運搬してくる仕事。この時小昼飯(こじはん)に草餅(こじはん餅)を食べました。</p>
	3月下旬 4月上旬 「肥引き」	<p>昔はほとんどの家で牛を飼っていた。1年間かけて、堆肥を作り田んぼの雪が1メートルぐらいになったら、ソリで引いて運んだ。肥引きが終わる頃には、雪もなくなって農作業に移った。</p>
	<p>山の「木分け」から始まり、「木切り」、運搬用の「道づくり」、山から木置場への運搬、さらにそこから各家まで運び、木を割って屋根裏の「ちし」に積み上げるまで約1ヶ月間。「木出しに行くか、鉈で頭を削られるか、どっちが良いか」と例えられるほど重労働で、大急ぎで片づけなければならないという大仕事。15歳で一人前として扱われるようになった男子は、これが部落の初めての共同作業になる為、家族は皆に挨拶してまわった。協力し助け合うことで連帯感も増し、互いの絆づくりにも大切な意義を持っていた仕事。昭和30年代半ば、石炭や石油・ガスの普及とともに、この仕事も徐々に行われなくなり、焚き木は薪として利用される程度になりました。</p>	
夏	8月13日 「墓参り」	<p>お精霊棚を作り、盆花を飾り、柁にはススキ、ハギを立て、野菜をお供えします。早めに夕食を食べ、風呂に入って身を清めたあと、新しい盆下駄(げた)盆浴衣を着て、こうず・だんご・花・線香・提灯を持ってお参りをしました。送り地蔵に団子と線香を、お墓にはこうずに団子をお供えし、「オノガラ」で迎え火を焚き、帰る途中に家主はお地蔵さまにまわりお参りします。帰るとまた、「オノガラ」で迎え火を焚きました。</p>
	8月14日 「お盆礼」	<p>朝は餅をつき、「ハスの葉」に盛って仏さまに備え嫁は実家にお盆礼に行きました。</p>
	8月15日 「お仏たて」	<p>夕方、団子や果物を持って、お墓へ行き先祖を送りました。</p>
	8月15日 8月18日 盆踊り (下叶水)	<p>夏の最大行事と言われている盆踊りは済広寺前庭で行われました。</p> <p>あの世から帰ってくる祖先をお迎えする準備に始まり、祖先をお送りするまで行事が続きます。盆に亡くなった祖先も今生きている人も、大人も子供も共に過ごす機会とされていました。</p>

夏	8月16日 「百万遍」	お寺に行って、重箱に、漬物やおひたしなどの食べ物を各個人それぞれ持ち寄って、お寺の和尚様にお経をあげてもらいます。その時、木で作った数珠を皆で回して、阿弥陀（あみだ）の名号（みょうごう）を百万回唱えます。火災が起きないように。村の人々が健康で暮らせるように。作物が豊作であるように。など、さまざまなことをお祈りしたそうです。（下叶水の場合）
	なぜ百万遍が始まったのか？ 下叶水に家が16戸あったとき、火災が起きて、3戸しか残らず全部焼けてしまいました。川をはさんで、東側と西側に同じくらいの戸数がありました。ある時、東側のある家が火元になって火災が起き、川を越えて西側の家にも移り、残った家は3戸だけで、あとは全部焼けてしまったそうです。次からは、こんな事が起きないようにと願って百万遍を行ったのが始まりとされています。	
秋	8月17日 「盆踊り」 (市野々)	一戸一名が出て、午後から盆踊りの準備をします。帰省者や近隣部落からも大勢参加し、先祖の供養と豊作を祈り、笛・太鼓・歌によって夜遅くまで踊りました。
	8月18日 「神楽舞い」	市野々の飛泉寺で行っていました。小頭が先になり、若衆数人で神楽舞いを踊り、各家を廻り、寄付やお米等をもらいました。神楽に頭をかんでもらうと、頭やみ（頭痛）をしないとされていました。
	8月21日 「神送り」	和尚様が拜んでくれたお札を、木にはさんで、「お盆の神おくるわー」と言いながら、村外れまでお札を立てて、お盆の神様をおくりました。
	「虫おくり」	畑の野菜や米に虫がつくと、いいものが採れなくなるので、小中学校の子供と、部落の若衆が参加し、夜やなぎの枝に「虫おくり」の札をつけ提灯を持ち、部落の上からホラ貝を吹き「虫おくるわー」と唱え村はずれまで送りました。
	9月15日 「秋祭り」	(市野々) 熊野神社と金毘羅さまのお祭り、神主を呼んでご祈祷をしてもらい、回り番の宿で酒を飲んだ。もちをついて、神さまに供えました。
	9月18日 「秋祭り」	(下叶水) 石動神社と鎮守さまのお祭り、市野々と同じ事をしました。
	10月16日 お田の神さま	※ 冬の2月16日と同じ行事をしました。 大きな団子を16個作り、ザルに入れ、お田の神さまに備えました。 (この日から田の神が山の神に変わりました。)
冬	12月30日 「歳徳神」	歳徳神さまにお神酒と「おみだま」納豆、わらび漬けをお供えしました。 月数（通常は12個、閏年は13個）のご飯を握ったものに萩の箸を立て五升マスに載せました。
	1月15日 「野のはじめ」 「とりおい」 「雪中田植え (さづき)」	豆がら、ワラ、おのがらを束ねた苗を12束（月の数で閏年は13束）作り「野のはじめ」で堆肥を撒いた雪の上に田型を作り植えました。 (市野々は15日、下叶水は14日の夕方に行いました。) 「とりおい」とは朝早く子供がさづきのところへ行って、鳥がこないように追い出しました。
	2月16日 お田の神さま	大きな団子（田の神だんご）を16個作り、ザルに入れ、お田の神さまに備えました。（この日から山の神が田の神に変わりました。)

その他、「契約」という行事もありました。

宿元の当番に当たっている家にメンバーが集まり、前年度と翌年度の部落の様々なテーマについて協議・決定した。

参考：「置賜の庶民生活(三)・人の一生」 「ふるさとへの想ひー市野々・下叶水ー」より

市野々の「契約」	出席者は1戸1人で、各家の戸主かその長男のどちらかが正式な参加資格を認められていた。総戸数は41戸だったが7戸は「よそ者」（比較的新しく移住してきたり永住ではなく短期間だけ移住している人々）として、契約には加われなかった。また非農家もメンバーに含まれず農家の29戸のうち3戸は、いずれも分家ということで参加資格を認められなかった。つまり村の決め事や財産に関わり得る「村にとって一人前の家」と認められたメンバーだけによって構成されていた。
下叶水の「契約」	昭和の戦争前まで、下叶水には「契約組」という組織があった。地区に分ける隣組のようなものではなく、いわば契約上の義理の「親戚」のようなものだった。年に1度の「契約」になると、当番に当たっている宿元と契約組の人々が、前の日からご馳走を作って準備した。1日目に決め事、2日目に飲み会と、2日に渡って行ったこともあった。
<p>小国の若衆契約は「若連中契約」と呼ばれ、長男・次男の別なく15歳になると加入し、新暦の12月31日に1年の契約が行われる。各人が酒・肴を持参し新たに15歳になった者は加入の挨拶をする。退会は自分の長男が15歳になった年であるから、子どものいない場合などは60歳ぐらいまで顔を出すことになっていた。若連中の代表を若衆頭と呼び、その下に副若衆頭を置き、今年加入した者は小若衆として小走り役を勤めることになっていた。人足の仕事は作業道づくり、道普譜、馬道なおし、草刈の他に「川狩り」と称してや鱒や鮎を取ることを共同の仕事として行ったり、兔とり、天気祭り、神送り、ねずみ送り、虫送りなどを相談し合う若連中の楽しみでもある鎮守の祭礼（山の神）もあり芸人が来たときには若連中として、宿を引き受けることにもなっていたそうです。</p> <p>昭和35年に津川村が小国町と合併した頃から大きく変わり、所有していた部落の契約山など、共同財産を背景とする従来のような「契約」は余り意味がなくなり。昭和36年の契約で、それまでのやり方での契約を廃止することが決まり、新しい契約に移り変わった。大宮講と山の神講も新契約に合併されたため、メンバーは全戸加入、会場は宿元ではなく公民館や分校で、女性の参加も認められ、戸主と妻が構成員になり、宴会の費用も全戸均等負担で、料理内容も自由となった。</p>	

## ②まとめ

今は、携帯電話やテレビなどを通して簡単に情報を手に入れることができますが、情報を手に入れる手段が限られていた昔の人々は、部落のみんなが集まる行事は、ひとつのコミュニケーションの場としての役割も担っていたのではないかと思います。

部落の人たちは、1年間の行事を伝統として皆で協力し大事に受け継いできた事がわかりました。私の住んでいる地域では、市野々・下叶水のように行事ごとに集まって何かをする、などということはありません。現代の生活スタイル（仕事や休日）が変わったのが原因と言われていますが、身近な行事も月日が過ぎていくごとに、少なくなっているともお聞きますし、とても残念な感じを受けます。しかしそんな中でも皆が一同に集まり何かを行うということはとても大切だと感じます。また、調べていくほどに市野々・下叶水の人々は行事がある度ご先祖様のことを想い、大切に敬っているということがよくわかりました。このように、年中行事1つとっても様々な様相があることが伺え民俗の世界は奥が深いと感じました。

### (3) 市野々・下叶水の伝承工芸

#### ①伝承工芸品を調べる

横川ダム管理事務所高橋さんにお話を伺いました。

市野々・下叶水は宿場といっても特に目立った特産物や工芸品は無いとのことでした。手がかりがないまま調べていくと、実は市野々は荷物を運ぶ中継地になっていた。ということが分かり、そこから牛に関する物を調べていきました。

(佐藤 治助著「村の暮らしと藁」より)

**【牛は稲作農家にとって家族同様の存在でした。堆肥作りも大切な役目の一つでしたが、なんといってもその労働力は貴重で偉大であった。鋤で一株耕した時代に比べれば飛躍的に作業能率をあげた。(代掻き・稲揚げ・堆肥運搬など)】**

再び東原にお住まいの渡部錬太郎さんにお話を伺いました。

- ・牛は農耕の際は重要な労働力としていました。そんな牛達はとても大事に扱われ、同じ屋根の下に飼い（玄関から入るとすぐ牛小屋がある）まさに生活共同体だったといえます。
- ・働き者の牛の食べ物や健康にはとても気をつけていたそうです。
- ・エサはくず米や、わらを刻んだものなどで獣医は小国に2人いたそうです。
- ・牛が年老いてくると、冬に多くエサを与え太らせ、春に若い牛数頭を引き連れてやってくる「ばくろ」と呼ばれる方と交渉し、新しい牛とお金に交換していました。
- ・黒沢峠を通る際は、足の負担軽減・スリップ防止の為に藁（わら）で編んだわらじを前足に履かせていた。ことがわかりました。

「牛のわらじ？」そこから稲作が中心である市野々で他に藁を使った生活用具を探ってみました。

#### ②「わら細工」について調べる

小国町の国道沿いにある道の駅に「わら細工」が売られている事を聞きました。見学の後、店の方に製作者をお聞きしたところ市野沢にお住まいの島貫一雄さんということが分かりました。その後、連絡を取り島貫さんの自宅へお話を伺いに行きました。

- ・当時は蓑（みの）や草鞋（わらじ）等をその家で使用する1年分を製作していました。
- ・農閑期の冬仕事に男性が製作し来季に備える。（縄ないは女性がやっていたりもした）というライフスタイルが確立していた。
- ・夏は、「わらじ」を履き、冬は、草鞋よりも足の露出が少ないスニーカーのような「じんべ」というものを履いていた。また田仕事には「わらじ」、山仕事には「しんべ」と履き分けていた。

(わらじ)・・・島貫さんは山で木を切り田畑で炭にし、その炭を町で売るために牛で運んでいました。当時整備のされていない道を長距離歩くその牛の足を気遣ってわらじを作り履かせていたそうです。どの家でも農作業で働く牛に施していましたが、その後、道が良くなりその必要もなくなり作る機会がなくなりました。今ではこの「牛のわらじ」を作ることができる方は島貫さん始め数少なくなり、現在作っている人はいないそうです。

(じんべ)・・・島貫さんもお父さんから見よう見まねで教わったそうです。昔はどこの家でも実用品として作っていましたが今は主に観賞用になりました。その他地区でも同じようなものは作られていますが、作業工程や名前には違いがあるそうです。

### ③じんべ制作（観賞用・工芸品となった事を踏まえて〔制作〕と表記）

#### 作業工程

通常は稲刈り後（その年）の藁を使用しますが、今回は一年越しの藁を使用しました。

（藁の長さ（丈）がないものは「じんべ」の甲まで編むことができない）

I 藁を叩き柔軟性を出す。（履き心地をよくするために。藁づくりが一番重要）

II 縄を編み「こくり」という道具で藁（わら）をしごいていく。

III 底を作製

（水などが入らないように藁を編み、丈夫に作っていく。）

IV 足の型にはめる

V つま先の部分を作製

VI 足の甲の部分の編む

VII かかとの部分を編む

VIII 火に通し余分な藁を除く



作業工程

④作成したじんべを文化祭で展示し、調査する。

見学に訪れた方に、話を聞き他地区との比較（形や工程、名前等）をしようとしたのですが、文化祭への来校者が少なく、参考になる意見は得られませんでした。

⑤撮ったビデオと写真を編集してDVDを制作

制作風景を記録し映像として残しておくようにと、ビデオカメラ

・デジタルカメラで撮影した「じんべ制作」の工程を記録し、

パソコンで編集したものをDVDとビデオテープに保存しました。



⑥まとめ

当時の人は稲藁でさえ捨てることなく、牛の肥料やじんべや草鞋といった物に利用していました。「もったいない」という意識を絶えず持ち、生活していたことがわかります。それは常に自然に対して感謝の気持ちがあったからできる事だと思います。自然界から受ける恩恵は生活の基盤をも左右しかねないものであることを知っていたため、自然に対しては常に敬意をはらいローインパクトを心がけていたのではないのでしょうか。

また、じんべ作りは、初めての私達にとってとても難しく、手助けをしてもらいながらようやく完成することが出来ました。見て学ぶということが伝承の特徴とお聞きしましたが、特に「じんべ」や「わらじ」は当時、実用品であったからこそ、必死に覚えられたのかもしれないと思いました。実用品でなくなった現在では伝えていくのが難しくなっていたと言われていた島貫さんの言葉が少し寂しく感じました。そこで我々に何か出来ないものかと考え、制作風景を記録し残しておくことができればと思い、じんべ制作を20分間にまとめたDVDを作成するにいたりしました。完成したDVDは島貫さんにプレゼントしました。大変感動し喜んで頂きました。しかしビデオ編集に時間をとられてしまい、当初予定していた他地区との比較はできませんでした。しかし伝承とは人との触れ合いによって受け継がれてきた事と考えれば、島貫さんにお話を伺い喜んで頂くまでのその過程も、実は伝承文化の手段の一つだったのかも知れないと思いました。



#### (4) 現地巡り

##### ①現地を歩く

当時は小国から市野々に行くには徒歩か牛・馬で峠を越えました。私達も実際に当時の旅人の気持ちを調べてみたいと思い、各班目的を持ち全員で歩いてみました。

- ・年中行事班：信仰の中心となっていた飛泉寺。その大銀杏の木と新設された飛泉寺を見学する。
- ・伝承工芸班：作成したじんべ・わらじを実際に履いて峠を歩く。

白い森案内人：三須一郎さんに案内・説明をしていただきました。

2008年7月30日（金）（8：10～17：00）

行程：学校～貝淵峠～黒沢～黒沢峠～元市野々地区～大銀杏の木～現在の飛泉寺～学校



##### ②まとめ

実際に市野々に通じる黒沢峠を歩いてみると、とても市野々までは遠く、やっと着いたという達成感がありました。じんべを履くと石苔でも滑らず安心して歩けましたが、足が擦れて長距離となるとやはり大変だと思いました。実際には市野々は宿場とされていたの



ですが、旅人には今のようなおもてなしは出来なく、質素な食事や部屋の提供に過ぎなかったとお聞きしました。しかし、その連なる険しい峠道を越えてきた旅人には、おもてなし以上に市野々部落の生活の明かりから得る安堵感の方が大きかったのではないのでしょうか。

ダムの水が少ない夏季に限り市野々の農道が現われ、その道を歩くことができました。移動された大銀杏の木の跡地には大きなモニュメントが建設されており、民家があったであろう場所は、大きく土が盛り上がっていました。実際にその場に立ってみて、改めて調べていた村の面影を感じました。当時の建物は一切残されていないものの、資料からかつて存在した部落の姿を想像できました。三須さんにお話しを伺いながら思いを馳せ、眺めたその光景に少し胸が締め付けられる思いがしました。

#### (5) 調査を終えて

今回の調査で市野々・下叶水という村のその時代その時代の暮らしを知り、またその時代の変化の中で翻弄されながらも順応していく人々の力強さというものを感ずることが出来ました。住んでいた土地は消えてしまいましたがこうして記録を残すことにより、部落の人々の思いは、これから先もずっと残っていくように思いました。

長い年月をかけて綴られた山村の年中行事には、今に通ずる箴言も秘められていることもわかりました。今回のような建設事業で消えていく村や町が数多くあると思いますが、その場所、その時代で創られた年中行事や伝承技術を「生きた証」としてその記録や資料をしっかりと残し、後世に伝えていく事が、今に生きる者としての勤めであることを私たちは強く感じました。

今回の調査にご協力を頂いた関係者の皆様 ありがとうございます。

## 小国の魅力を発信する

班員 伊藤祥希 伊藤梨真 井上結香 舟山真

### 1. テーマ設定

小国町の地域文化を学び、小国町で生きていく若者として小国町の魅力や活力ある活動を発信することを目的とする。また、そのことで、私たち自らが、新たな小国文化を共創する担い手となる。発信媒体は雑誌『Oguu』である。

### 2. 取材の概要

(1) 森林セラピーを満喫する = 【特集1】

- ・小国町役場での取材とアンケートの実施
- ・セラピー基地（温身平）での癒し体験

(2) 雑穀に注目する = 【特集2】

- ・「日常茶飯美」（雑穀料理店）の取材
- ・「食」をめぐるネットワークを知る／座談会の実施

(3) 小国町の食に触れる = 【特集3】

- ・小国町の郷土料理を探る／「からこ」と「金目そば」の取材
- ・小国町で最近売り出しているモノに迫る／「たかきびソフトクリーム」の取材

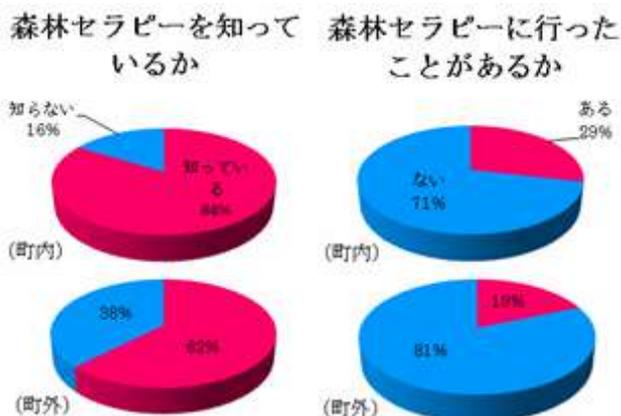
### 3. 特集記事概要

小国町の特色である自然の恵みをキーワードにし、特集記事を作ることにした。小国町を元気にしようと活躍なさっている多くの方々との出会いを通じて私たち自身もその輪の中に入ることができ、有意義な経験を重ねた。

(1) 【特集1】 もりのちから

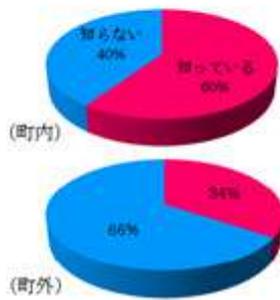
① 温身平の森林セラピー

→ 森林セラピーの知名度についてアンケートを実施・森林セラピーの定義を要約



【定義】森林セラピーとは森林療法のこと、森が持っている癒しの効果で「こころ」と「からだ」を元気にしようという取り組みである。温身平は平成18年4月に全国初の森林セラピー基地のひとつに認定された。温身平は飯豊山系の山麓にあり、磐梯朝日国立公園内に位置している。そしてこの森の癒し効果は科学的にも実証されている。

### 森林セラピーがどこにあるか知っている



【知名度】森林セラピーの知名度、印象や感想などのアンケート調査を行い、その結果をグラフにまとめた。

その結果、町民にも少数だが森林セラピーを知らないという人がおり、温身平の森林セラピーはまだ浸透しきっていないということがわかった。アンケートの中に「PR不足」という指摘もあったため、『Oguu』を通しての知名度アップを図りたい。

また、セラピーに行ったことがないという人は町内外どちらも7割を超えており、理由として「場所が分からない」「温身平まで行くのが大変」などが挙げられた。「セラピーを知ってはいるが行ったことがない」という人も多く、やはり温身平までの

交通の便に原因があるようだ。

一方、町外の人で小国の森林セラピーを体験したことのある人はテレビなどを通して知ったという。行ったことがある人からは、年齢・性別問わず「気持ちがいい」「歩きやすい」と評判は上々。「憩いのスペースを充実させるべき」「座る場所がほしい」「ビンの破片など、ゴミがあり危険」という声もあった。

### ②私たち流 ここがオススメ！

→オススメポイントの紹介、セラピーロードのマップを参照

#### 【例】温身平の大木たち



温身平に生息するヤチダモは「森の巨人たち百選」に選ばれた大木で、幹回り465cm、高さ34m、推定樹齢は約200年と言われている。樹齢200年以上のヤチダモは国内最大級でとても珍しい。ところが温身平に道路を作る際にこのヤチダモの木が邪魔になってしまった。しかし温身平のシンボルであるヤチダモを残しておきたい、という町民たちの強い希望で、道路はヤチダモを避けて作られた。

ここには推定樹齢300年を超えるミズナラの大木もある。森の巨人たち百選には入っていないが、これほどのミズナラはとても珍しい。温身平のミズナラは中が空洞になっているが、本来はとても丈夫な木であるため高級家具などに使われる。

#### ▲ヤチダモ

ーオススメー

ヤチダモとミズナラは存在感抜群！ミズナラは「森の巨人たち百選」に選ばれてもいいくらい！！

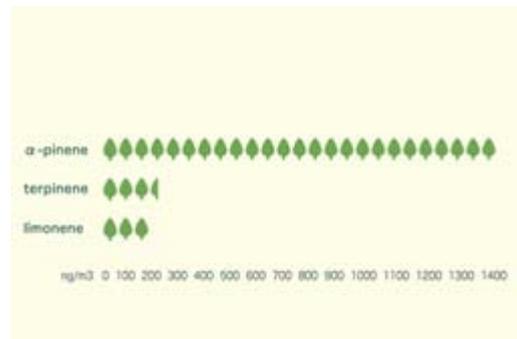
### ③科学が検証した 森林の力！！

→科学的にも実証された森林セラピーの癒し効果について

平成17年7月に新潟大学の学生12人を対象にした「森林セラピーの効果」についての科学的な検証がなされた。小国町役場の森林セラピー担当の方に、その時の結果を分かりやすく説明していただいた。右写真は癒し効果があるという「α-ピネン」の香りをかいているところ。



▲ α-ピネンをかぐ



▲森林の香り成分のグラフ

### ④こんな楽しみ方はいかが？

→森林セラピーの楽しみ方を提唱

実施に森林セラピーを体験した私たちが3つの楽しみ方を提唱する。一つめは「ピクト



▲ ピクトグラム



▲アテンダント

グラム」を探してその絵文字にある指示で森林を満喫するという楽しみ方である。写真はマイナスイオンのピクトグラムである。付近でマイナスイオンを体いっぱい体感できる。二つめはセラピーアテンダントと森林を満喫するという楽しみ方である。私たちはアテンダントの伊藤さんに森林を案内してもらった。森林のプロに温身平のエピソードや魅力を聞きながら散策するのも楽しい。三

つ目は散策しながら「自分の木」を見つけるという楽しみ方である。また訪れた時、その成長を感じられるという楽しみにもつながる。

### ⑤セラピーを楽しむための注意点

→体験する上での注意点や危険、望ましい服装などを紹介

温身平には、危険な虫や有害な植物が数多くある。それらの危険から身を守るためにしなければいけないこと、注意点などを挙げていく。

#### 【森林の危険】

◎ ハチ・・・ハチは黒いものや特に髪の毛などに寄ってくる習性があるが、手で払ってはいけない。もし寄ってきたらすぐにしゃがむ。

◎ ヘビ（マムシ）・・・足首まで覆っているシューズを履くのが望ましい。また見つけてもむやみに手を出さない。噛まれてしまった場合は、噛まれた位置より高いところでしる。



▲ 森林セラピーを満喫中

◎ クマ・・・目を合わせたまま後ずさる。

◎ ツタウルシ・・・触るとかぶれてしまう。毒があるため、注意が必要。ツルツルした葉が3枚重なっているのが特徴。

## ⑥交通アクセスについて

→温身平までの交通、料金について

\*国道113号から温身平まで

国道113号山形・新潟県境付近のコバレントマテリアル(株)赤芝発電所が目印。国道の下をくぐり、長者原・飯豊登山口方面へ約30分。終点の飯豊山荘の駐車場からすぐ。

\*最寄の高速道路インターチェンジからの所要時間

- ・日本海東北自動車道中条ICより約1時間30分
- ・東北自動車道飯坂IC、山形自動車山形蔵王ICより約2時間30分

\*JRをご利用の方

山形新幹線米沢駅または羽越本線坂町駅からJR米坂線に乗りかえ、小国駅で下車。町営バス南部線「飯豊梅皮花荘(いいでかいらぎそう)・飯豊山荘」行きで約50分。終点飯豊山荘から徒歩2分。

※町営バス南部線「梅皮花荘～飯豊山荘」間は、7月1日～8月31日のみ運行。

料金【小国駅～飯豊梅皮花荘】大人 600円、小人 300円

【小国駅～飯豊山荘】 大人 700円、小人 350円



▲温身平までのアクセス

## ⑦私たちから見た魅力

→高校生の視点で魅力を発信する

小国町役場で温身平の森林セラピーについて詳しく説明をいただいた後、実際に温身平の森林セラピーを体験した。その時の体験を踏まえて私たち自身の言葉で魅力を提案する。

### (2)【特集2】雑穀への思い

小国町で「雑穀」を広めようと精力的に活躍なさっている方々がいる。「雑穀」で町を元気にしようとしている「おぐに五穀の会」の三人に参集いただいて話を伺った。

【座談会参加者】



▲ 渡部茂雄さん  
(おぐに五穀の会 代表)  
<雑穀生産者>



▲ 高橋悦人さん  
(HEARTLAND FARM)  
<販売者(直売所)>



▲ 新野伸子さん  
(日常茶飯美)  
<料理提供>

### 【座談会記事項目】

1時間ほどの座談会の様子を原稿起こした。次に、趣意を整理し、以下の通りに項目を立てた。

①おぐに五穀の会の発足 ②雑穀に関わることの魅力 ③小国町の魅力 ④人と人とのつながりを広める秘訣 ⑤今後の展望 ⑥食の安心・安全について ⑦座談会を終えて

### 【座談会原稿起こし一部抜粋】

(伊藤祥) ここまで「おぐに五穀の会」についていろいろお話をお伺いしましたが、小国町の魅力について一言ずつお願いします。

(高橋) 水がいいからいい米ができたり、雪が深いおかげでいい山菜ができるのだと思っています。ここは雪がひどくて嫌いだっていう人もいるけれど、山であり森であり水であり雪であり、こうしたバックグラウンド全てって言うんですかね、素晴らしい自然の恩恵が魅力です。それらが自慢だし武器にもなるし、誇るべきところでもあります。それらの恩恵にあやかって私たちは生きているんですよ。

(新野) 私は小国町の外から来たから客観視できるかな。最初は…やっぱり何もないし、そこに住んでいる人たちもやる気がないイメージでした。淡々と雪掘ってるみたいなの。でも役場の人たちも4・5年前から「何かをやろうよ」っていうやる気が出てきたみたいで。「おぐに五穀の会」が発足したあたりから、なんだか盛り上がってきた気がします。人が何もないところから何か立ち上げるパワー、そんな「人」が魅力だし、「人同士がつながっている」ということも魅力です。東京には本当にいろいろなものがあるけど、人が人にあんまり関心を持ってなかったりとかするかな。でも、田舎は田舎でいいところがある。「人同士がつながってる」ことの方が幸せだと思います。

(渡部) 小国町は一見何もないように見えるけど、それはそこに住んでる人が気づかないだけだと思います。感性を豊かにすると、いろんなものが見えてくる。自然に浸るっていうのも楽しいものだ。小国の魅力って言われたら自然に浸る楽しさが魅力かな。

(舟山) 今までお話を聞いていて、人と人とのつながりがとても素晴らしいと感じました。このつながりを維持したり広めたりする秘訣はなにかありますか？



▲座談会の様子 左から 新野さん、高橋さん、渡部さん

(3) 【特集3】小国の食は生きている 現在追加取材中

夏季休業中に小国町の各地を調査し、多くの方々から話を聞くことができた。本特集では小国町の食を旧(①・②)と新(③)にくくり、調査したことを発信する。

【旧】①からこ(沼澤きぬ氏に取材・小国町針生)

②金目そば(創業当初から関わっていらっしゃる齋藤さんたちに取材・小国町金目)



▲沼澤氏宅でからこの歴史を聞く ▲金目そばを食す



▼ 創業当初から関わっている齋藤さんたちと



【新】③たかきびソフトクリーム(片洞門休憩所の新特産物に迫る取材・小国町箱ノ口)



▲たかきびソフトクリームとその原材料

現在、新米の季節を待って「からこ」の追加取材をしている最中である。これまでの取材を整理し、特集記事③「小国の食は生きている」を作成する。

#### 4. 今後の活動について

- (1) 「からこ」追加取材
- (2) 特集記事③「小国の食は生きている」の完成
- (3) 雑誌『Oguu』の発刊

#### 5. 活動のまとめ

- ・ 活動全体を通し、私は自分が住む小国町の魅力を沢山発見することができた。食が豊かで自然が美しく、そしてこの町に住む人々もとても温かで魅力的だった。私たちが見つけた小国町の魅力を多くの人々に発信し、この町をさらに盛り上げていけたらいいと思った。(伊藤祥希)
- ・ 地域文化学を通して、たくさんの小国の魅力や文化に触れることができた。小国に住んでいるのに知らなかったこともあり、新たに発見することができてよかった。小国の魅力を大切にしつつ、何かできることがあれば協力していきたいと思う。(伊藤梨真)
- ・ 小国町の「食」や「自然」についてとても興味が湧いた。食も自然も豊かで、何よりそこで活躍している人もとても素敵な人たちが多かった。地域文化学で貴重な体験ができた。(井上結香)
- ・ いろいろな方々と一緒に活動を行い、小国町の人々の良さを知ることができた。温かさであったり、ネットワークの広がりであったり、いい町だ。この活動で発見することができた小国町の魅力を将来もずっと大切に、地域に貢献していきたい。(舟山真)

# Oguu

2008  
創刊号

～高校生が発信する小国の魅力いっぱいマガジン!!～

特集

小国を、楽しむ。

Oguni senior high school

# Oguru 2008 創刊号

～高校生が発信する小国の魅力いっぱいマガジン!!～

## 特集

# 小国を、楽しむ。

### 特集1

もりのちから ぬくみだいら ～温身平の森林セラピーを満喫～

### 特集2

雑穀への思い ～雑穀をめぐる食のネットワーク～

### 特集3

小国の食は生きている

①金目そば

②からこ

③たかきびソフトクリーム

特集

# 小国を、 楽しむ。

小国ってステキ。

「自然の魅力」をキーワードに

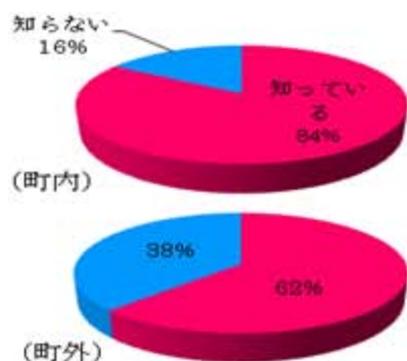
私たち流の小国の楽しみ方を提案します。

# もりのちから

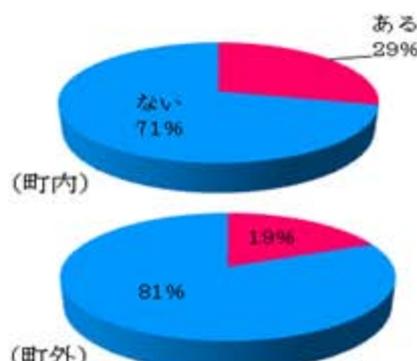
ぬくみだい  
 ~温身平の森林セラピーを満喫~

## 温身平の森林セラピー

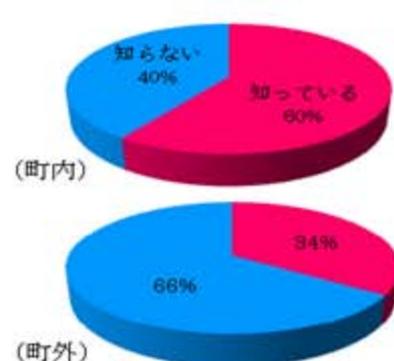
Q1. 森林セラピーを知っているか



Q2. 森林セラピーに行ったことがあるか



Q3. 森林セラピーがどこにあるか知っているか



9/18・アスモ店内直売所、9/21・道の駅白い森おぐに 町内90・町外85 全175名対象

森林セラピーとは森林療法のことで、森が持っている癒しの効果で「こころ」と「からだ」を元気にしようという取り組みです。温身平は平成十八年四月に全国初の森林セラピー基地のひとつに認定されました。温身平は飯豊山系の山麓にあり、磐梯朝日国立公園内に位置しています。そしてこの森の癒し効果は科学的にも実証されています。

本特集では、森林セラピーの知名度などを知るためのアンケート調査を行い、グラフにまとめました。

その結果、町民にも少数ですが温身平の森林セラピーを知らないという人がおり、まだ浸透しきっていないことがわかりました。アンケートの中に「PR不足」という指摘もあったため、「Oguni」を通しての知名度アップを図りたいと思っています。

また、セラピーに行ったことがないという人は町内外どちらも七割を超えており、理由として「場所が分からない」「温身平まで行くのが大変」などが挙げられました。「セラピーを知っているが行ったことがない」という人も多く、やはり温身平までの交通の便に原因があるようです。

一方、町外の人で小国の森林セラピーを体験したことのある人はテレビなどを通して知ったそうです。行ったことがある人からは、年齢・性別問わず「気持ちがいい」「歩きやすい」と評判は上々です。「憩いのスペースを充実させるべき」「座る場所がほしい」という声もありました。

次頁からは私たちが実際に体験したことをもとに温身平の森林セラピーを満喫するためのエッセンスを紹介します。

# 私たち流ここがオススメ!



▲温身平セラピーロードルートマップ

小国町役場作成「森林セラピー@基地 ~白い森の国おぐに~ プナの森温身平」パンフレットより引用

①ガイドコーナー  
とても見やすく、温身平の森が持っている癒しの効果を紹介してあります。これを見ることでセラピーの楽しみ方の幅が広がること間違いなし!

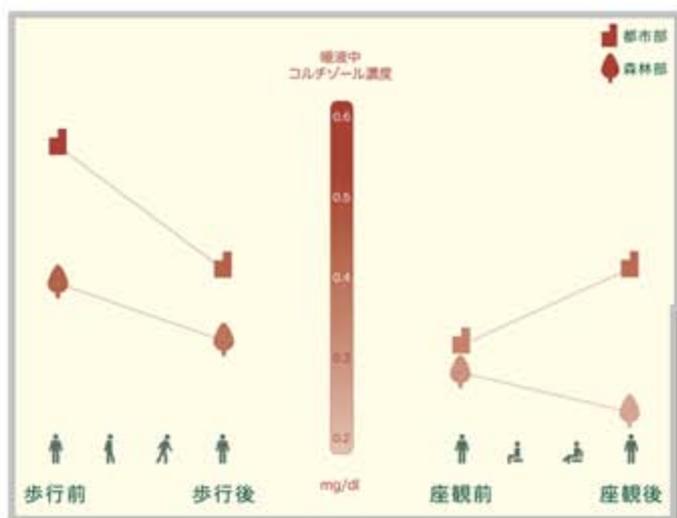
②温身平の大木たち  
温身平に生息するヤチダモは「森の巨人たち百選」に選ばれた大木で、幹回り四六五センチメートル、高さ三四メートル、推定樹齢は約二百年と言われています。樹齢二百年以上のヤチダモは国内最大級でも珍しいです。

③バイオトイレ  
豊かな温身平の水を汚すことを避けたいという考えから、温身平にはバイオトイレが設置されました。バイオトイレとは自己完結型トイレで、微生物によって排泄物をきれいにしていく仕組みになっています。このトイレは保水力があり常に水が流れ続けるため、きれいを保つことができます。特徴として清潔で衛生的、悪臭がない、環境保全に役立つ、資源で経済的、防災機能などが挙げられます。バイオトイレは、毎朝シルバー人材センターの方々が清掃してくださっているそうです。バイオトイレの仕組みは地球に優しいので、ぜひ使ってみてください!

④温身の池  
けもの道にある温身の池はどのようにしてできたのかわからない池です。この池はたくさん湧水が集まってできているため、何があっても枯れることがありません。  
大きさは時期によって著しく変化し、少ない時は十メートル後半、五く七月上旬の雪解け水が多い時では四十く五十メートルにもなります。六月には池周辺の木々にモリアオガエルが卵を産みつけていきます。  
映画「もののけ姫」に出てきそうなどとも幻想的で不思議な池です!

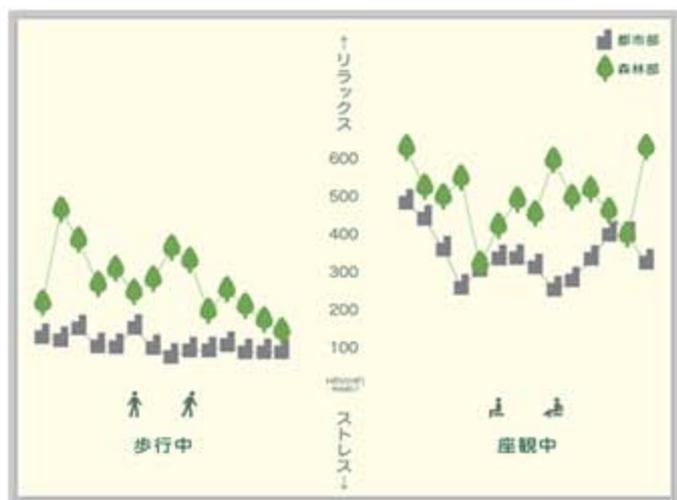
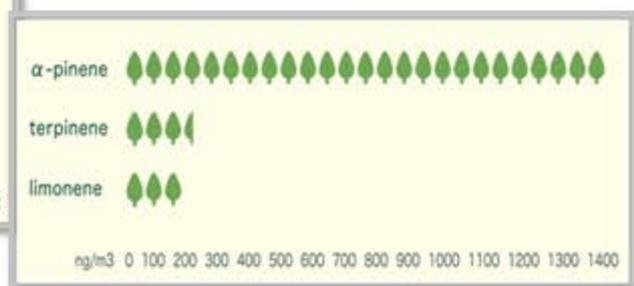
# 科学が検証した 森林の力!!

## ▼①森林浴でストレス減少



③「森の香り」癒しの成分 ▶

小国町では、ブナの森温身平の森林効果を検証するための実験（独立行政法人森林総合研究所協力）が行われました。平成十七年七月、新潟大学の学生十二名を対象に温身平に滞在した時と新潟市内に滞在した時の状態を比較。結果、次のような効果が確認されました。



▲②副交感神経の活性化

役場森林セラピー担当の渡部寿郎さんに詳しい説明を頂く



▲α-ピネンの香りを嗅ぐ

## ①ストレスホルモンの減少

唾液中に含まれるコルチゾール（ストレスによって発散されるホルモンの一種）の濃度を測定すると、温身平滞在中は濃度が低くなり、温身平では都市に比べてストレスが低下することがわかりました。

## ②副交感神経の活性化

リラククスしているというのは副交感神経の働きが活発であるということです。そのはたらきが活発なほど強くなるHFという成分を測定した結果、温身平では全体的に都市より高い傾向にあることがわかり、副交感神経が活性化しリラククスすることが実証されました。

## ③森の香りでのリラククス効果

温身平から、森の香りの主成分であるアルファ・ピネン、リモネンなどが多量に検出されました。これらは副交感神経を活性化し、癒し効果をもたらします。

癒しの効果は、特に座観中に高くなります。よりリラククス効果を得たいという方には座観がおすすです。



▲ピクトグラム（マイナスイオン）

[その1]

## ピクトグラム を探す

「ピクトグラム」とは日本語に置き換えると「絵文字」という意味です。セラピーロード内に二十六個ほど設置してあります。各場所で見ることができ癒し効果が絵文字で示されています。それらを意識し、五感を通して体感してもらうことで訪問者にリラクゼーション効果をもたらします。

みなさんもすべてのピクトグラムを見つけて、癒し効果を感じてみてください。



▲セラピーアテンダントの伊藤良一さん

## セラピー

[その2]

## アテンダントと歩く

セラピーアテンダントとは森の案内人のことであり、セラピーの楽しみ方、癒しスポットの紹介、安全管理などを仕事としています。

料金は、利用者一人につき半日で三千元、町内の学校単位で申し込みれば無料になります。

ただセラピーロードを歩くだけでなく、セラピーアテンダントの方に温身平にまつわる様々なエピソードを聞いたり、森の魅力を聞きながら歩いてみては？楽しさが増すこと間違いなしです。



▲森を散策、どの木も素敵…

[その3]

## 自分の木を 見つける

森の中には様々な種類の樹木があります。その中で「自分のお気に入りの木」を見つけてみてはいかがでしょうか？

自分が気に入ったと思う木に名前をつけてみたり、その木の成長を見守ったり…

また訪れたときの楽しみになるでしょう。

こんな楽しみ方はいかが？

# セラピーを 楽しむための注意点

温身平には危険な虫や有毒な植物などがあります。それらの危険から身を守ってセラピーを楽しむためにしなければならぬこと、注意点をいくつか挙げます。森林セラピーに行く時の参考にしてください。

## 【森の危険】

### ハチ(虫)

：黒いものや髪の毛に寄ってくる習性がありますが、手で払うことはしないでください。すぐにかがむこと。

### ヘビ、マムシ(爬虫類)

：被害に遭わないためには足首まで覆っているシューズを履くのが望ましいです。噛まれてしまった場合はその位置よりも高いところで縛ること。

### クマ(動物)

：遭遇する可能性は低いですが、もしものときは目を合わせたまま後ずさり。

### ウルシ(植物)

：茎が赤く、ツルツルした葉が3枚重なっているのが特徴です。触るとかぶれてしまいます。

## 【望ましい服装】

### 長袖・長ズボン・靴下

基本的には長袖・長ズボンを着用してください。素肌を出しておかないほうが安全です。

また、スニーカーや長靴などの足首まで覆っているものを履くようにしてください。間違ってもサンダル、ハイヒールなどは履かないでください。長時間歩くのに適した、履かれたたものを選ぶように心がけましょう。

## 【その他】

虫は香水などの強い匂いに慣れていませんので、驚いて襲ってくる恐れがあります。香水は控えるようにしてください。反対に、虫はラベンダー、ハッカ、ユーカリなどの香りを嫌うので虫よけに効果があります。

セラピーを楽しむ安全に体験するために、自分の身を守るということを考えた服装を心掛けてください。また、動植物には常に注意を払ってくださいね。



◀ 森林セラピーを満喫中！

# ☆交通アクセスについて☆



＊国道一一三号から温身平まで  
 国道一一三号山形・新潟県境付近のコバレントマテリアル(株)赤芝発電所が目印。国道の下をくぐり、長者原・飯豊登山口方面へ約三十分。終点の飯豊山荘の駐車場からすぐ。

＊最寄の高速道路インターチェンジからの所要時間  
 ・日本海東北自動車道中条ICより約一時間三十分  
 ・東北自動車道飯坂IC、山形自動車山形蔵王ICより約二時間三十分

＊JRをご利用の方  
 山形新幹線米沢駅または羽越本線

坂町駅からJR米坂線に乗りかえ、小国で下車。  
 町営バス南部線「飯豊梅皮花荘(いいでかいらぎそら)」・飯豊山荘」行きで約五十分。終点飯豊山JR米坂線に乗りかえ荘から徒歩二分。

＊町営バス南部線「梅皮花荘」・飯豊山荘」間は、七月一日～八月三十一日のみ運行。

料金【小国駅～飯豊梅皮花荘】  
 大人六百円、小人三百円  
 【小国駅～飯豊山荘】大人七百円、小人三百五十円

▲小国町森林セラピー推進協議会HPより引用 <http://www.town.oguni.yamagata.jp/therapy/index.html>



▲舟山

最初は目の高さの景色しか見ていませんでしたが、セラピーアテンダントの方に「木の先端を見てみたら。」と言われ、見てみると本当に美しく感動しました。癒されました。ぜひみなさんも、上を見て歩いてみてください。

実際行ってみて森林の香りや美しさを体全体で感じることができました。また、ヤチダモやミズナラの木はすごく大きく迫力があり、初めて来る人には絶好のスポットだと思います。ぜひ、温身平の森林セラピーで体全身癒されてください。



◀井上

セラピー

## 特集 2

# 雑穀への思い

座談会in日常茶飯美

～雑穀をめぐる食のネットワーク～

写真：舟山

小国町で、「雑穀」を広めようと精力的に活動なさっている方がいます。「雑穀」で、小国町を元気にしようとしている「おぐに五穀の会」の三人に集まっていたき座談会を実施しました。

### ■おぐに五穀の会の発足

(伊藤祥)おぐに五穀の会について教えてください。  
(渡部) 平成十六年の二月頃に発足しました。小国町で雑穀フォーラムをやることになって、その実行委員を中心にして立ち上げたのがおぐに五穀の会です。様々な職種の人たち、併せて十三人で構成されています。目的は、小国の町おこしにつなげることです。

そもそもは、平成七年頃からの減反政策などの影響もあり、何を作ったらいいいのかみんな考えたり時期がありました。その時に雑穀がいいのではないかとということになりました。ちょうど世間でもブーム的な感じがあったし、食べ物にこだわっている人たちを中心に盛り上がりました。

雑穀は穀物だから、ちゃんと乾燥させれば保存ができて通年供給が可能だしね。新たな特産物の候補となる物のひとつとして、挑戦してみることにになりました。

### ■雑穀に関わることの魅力

(伊藤祥)渡部さんは雑穀に携わる生産者として雑穀作りに対する魅力をどのように感じていますか。

(渡部) いろいろな人が一年を通じて、雑穀作りに携わってくれていて、そういういろいろな人に関わることができると魅力のひとつです。雑穀作りによって、輪が広がりました。いろいろな人たちと情報交換ができて楽しいです。雑穀という食べ物の中でもまだマイナーです。人には好みがあるから、押しつけるようなことはしたくないし自然に選択してもらえようになりたいです。



▲座談会の様子(会場「日常茶飯美」)  
左より 新野さん、高橋さん、渡部さん



▲小国高校  
左より 伊藤祥、井上、伊藤梨  
(司会) (記録) (記録)



▲渡部茂雄さん

小国町出身。小国町育ち。自然をこよなく愛し、岩井沢わたなべ農園で農業を営んでいる。おぐに五穀の会の会長で、意欲的に雑穀作りに関わっている。



▲高橋悦人さん

小国町出身。仙台市でのサラリーマン生活の後、帰農。現在HEARTLAND FARMを経営。アスモや道の駅で仲間と直売所を営んでいる。



▲新野信子さん

埼玉県出身。東京都で働いていたこともある。雑穀アドバイザー。雑穀料理店「日常茶飯美」で町内外のたくさんのお客さんに雑穀料理を提供している。

最近、食品偽造がものすごく騒がれています。でも、国産の流通は一割程度。しかも農薬や化学肥料を使わないのはごく一部だし。そういう中で農業に関わる者として安心と良さを提供していきたいです。

(伊藤梨)高橋さん、直売所での反応はどうですか。

(高橋) 昔、雑穀というのを嫌なもののイメージがあったかと思いますが。最近では、おしゃやかなイメージ、流行という感覚が広まってきました。確かに、認知度は増していますが、料理に使ってもらうまでには至っていない気がします。何か仕掛けを作っていきたいです。

(井上) 新野さんは雑穀料理を作って提供しているわけですが、お客さんと接するにあたって楽しいことや残念なことはありますか。

(新野) やはり人がいっぱい来てくれることがうれしいです。雑穀ということで町外から人が来たり、生産者とながたり、こういう風に新しいつながりができていくことが魅力です。

残念なことは、雑穀に良いイメージを抱いていない人もいますので、それをどう克服していくかです。一般の人たちに受け入れられる形にしていくなが課題だと思います。広く一般の人たちが食べて美味しいと思うものを作りたいです。

### ■小国町の魅力

(伊藤祥) ここまでおぐに五穀の会についていろいろお話をお伺いしましたが、小国町の魅力について一言ずつお願いします。

(高橋) 水がいいからいい米ができた、雪が深いおかげでいい山菜ができるのだと思っています。山であり森であり水であり雪であり、素晴らしい自然の恩恵が魅力です。それらが自慢にもなるし武器にもなるし、誇るべきところでもあります。それらの



▲渡部さんが生産した雑穀や米



▲熱く語ってくださっている渡部さん

恩恵にあやかって私たちは生きています。

(新野) 私はよそから来たからこそ客観的に見ることができると思います。人が何もないところから何かを立ち上げるパワー、そんな「人」が魅力だし、「人同士がつながっている」ということも魅力です。東京にはいろいろありますが、人が人あまり関心を持っていません。しかし、田舎は田舎でいいところがあります。「人同士がつながっている」ことの方が幸せだと思います。

(渡部) 感性を豊かにすると、いろいろなものが見えてくるし、自然に浸るっていうのも楽しいものだと思います。小国の魅力と言われたら、自然に浸る楽しさが魅力です。

#### ■人と人とのつながりを広める秘訣

(舟山) 今までお話を聞いていて、人と人とのつながりがとても素晴らしいと感じました。このつながりを維持したり広めたりする秘訣は何かありますか。

(新野) つながりを持つとうと無理はしないことです。好きなことを楽しくしていれば、自然と人がそこに入ってきたりつながっていくものだからです。

(高橋) 好きなことを一生懸命やっていたら、つながりは自然とできていくものです。

(渡部) 秘訣とは少し違うかもしれませんが、自分も含めて団塊の世代がたくさんいるわけですが、何をしていいかわからなくて、むなししい生活をしている人だっています。逆に、生き甲斐があると、生活にも張りができると思います。自分たちのしている活動に参加してもらったら、生き甲斐を与えられると思います。君たちは今は分がりにくいかもしれないけど、退職してすることがなくなるときこそ、したいことを見つけて、それに思いきり参加していくことが大切だと思います。



▲直売所で働く高橋さん(「アスモ」店内)



▲カウンターに立つ新野さん(日常茶飯美店内)



▲揚げなすとじゃがいもの  
たかきびそぼろがけ



▲チキンソテー  
モチキビとカボチャのクリームかけ

### ■今後の展望

(伊藤梨)今後の夢についてどのよう  
考えていらっしゃいますか。  
(高橋) いい流れが来ているから、こ  
のまま軌道に乗せていきたいです。  
「五穀の町小国」になればいいで  
す。一人一人が楽しく関わったら最  
高です。  
(新野) もうすでに町外の人から「小  
国って雑穀の町なんでしょ？」って  
言われてます。置賜から、県へ、県  
から日本へと広まるよう宣伝活動を  
していきたいです。

### ■食の安心・安全について

(渡部) 若い人に伝えたいことの  
一つですが、「食べる」ということは  
単に食べ物で腹を満たせばいいって  
いうことではないよね。しっかり手  
を加えたい素材を口にしてもらい  
たいです。いい素材は安心・安全だ  
からね。  
雑穀を基軸にしながら、食の安  
心・安全については妥協しない判断  
力を培ってほしいです。食べ物には  
よそれをめぐる多くの人が関わっ  
ているよね。そのことへの想像力が  
大事だと思っています。  
食に関わっている人たちが一生懸  
命に元気に活動していること自体が  
魅力だから。

### ■座談会を終えて

座談会の司会を初めて経験して、手  
探りで進めつつも、何とか終えること  
ができて良かったです。雑穀に携わっ  
ている人たちから雑穀についていろ  
いろなお話を聞くことができ、貴重な体  
験でした。  
雑穀を通じて小国町を元気にしよう  
としている方々の情  
熱が次々と人の輪を  
広げることを知り、  
感動しました。

(伊藤祥)



初めての座談会でとても緊張しまし  
た。しかし、集まってくれた三人  
の方々がお互いを知っていることも  
あり、話が広がり雑穀や小国の魅力に  
ついて大いに語っていただきました。  
「好きなことを一生懸命やっていれ  
ば、自然とつながりができてくる。」  
と三人の方々、実感をおこめておっ  
しゃっていただいたのが印象に残りました。  
将来はこのような  
生き生きしている  
大人になりたいと  
思いました。

(伊藤梨)



小国、魅力いっぱい。

# Ogunu 創刊号

2008年11月発行  
第1巻1号 第三種郵便物「不」認可

編集人・発行人  
伊藤祥希、伊藤梨真、井上結香、舟山真

県立小国高等学校  
地域文化学



## 「小国町にかかわる偉人」

班員 矢部杏奈 矢部理紗子

### 1. テーマ設定の理由

私達が「小国町にかかわる偉人」というテーマにした理由は、以前から自分たちの生まれ育った小国町の歴史に興味があり、この地域文化学を通して小国町の歴史を知りたいと思ったからです。

歴史といっても様々あると思いますが今回は、小国町の歴史のなかの偉人を調べてみたいと思い、このテーマを設定しました。

### 2. 調査の方法

- (1) 町民センターへ行き小国町の資料を確認
- (2) 大学の先生が持ってきてくださった資料の確認
- (3) パソコンで調べる

### 3. 調査の結果

私たちは『増岡審吉』という人物を主体に調査することにし、それに関わる人物や起こったことをまとめました。

#### 【増岡審吉】

この増岡審吉という人物は小国町出身の人物です。弘化2年生まれで、幼名を藤松といました。

この人は、慶応4年、江戸城明渡しの後、幕府の艦隊を率いて脱走した榎本武揚の軍に参加します。そして蝦夷地（今の北海道）へ渡り、五稜郭にて戦いました。

ちなみに五稜郭とは、江戸時代末期に現在の北海道函館市に建造された城郭、および当時日本で建造された星形の城郭の通称です。五稜郭に関わる代表的な人物には、みなさんも知っているかもしれませんが、新撰組副長の土方歳三などがいます。

増岡審吉は土方歳三と一緒に旧政府軍として、新政府軍と戦ったのです。

増岡は、米沢の志士雲井龍雄の提唱する明治新政府の転覆計画に参じ、献策したのですが、事志（現実が意図したものや理想と食い違うこと）ちがい、明治3年12月26日に東京小塚原で処刑され27歳で亡くなりました。

## 調査①【池村藤吉】

調べていくうちに増岡審吉に関する疑問がいくつか挙がりました。

まず1つめの疑問は、増岡審吉と『池村藤吉』という人物についての共通点です。

私たちは、増岡審吉の生い立ちなどを調べて行くうちに、池村藤吉という人物がいるということがわかりました。この池村藤吉の生い立ちを調べていくと、慶応4年に幕府の艦隊を率いて蝦夷地に渡ったこと、五稜郭にて戦ったことなど、ほとんどの事柄が増岡審吉と同じような生い立ちだったのです。

このことから、増岡審吉・池村藤吉の同一人物説が挙がりました。

また、この池村藤吉は『衝鋒隊』という隊に所属していました。(差図役並旗役)

### ・衝鋒隊とは

慶応4年4月初旬、古屋佐久左衛門・今井信郎らが旧幕臣たちを集めて結成。総員およそ400名。仏式訓練。(仏＝フランス。フランス式の兵士訓練を取り入れること。)最新装備。

結成時は総員およそ850名：幕府歩兵400名以上・帰順部隊350名・脱藩者100名、うち士官71名、大砲4門。

蝦夷地渡航では長鯨(大日本帝国海軍の潜水母艦で、迅鯨型潜水母艦の2番艦のこと)に乗船。函館戦争時の脱走者は16人ほど。

### <衝鋒隊が参加した主な戦争>

#### ・会津戦争・・・慶応4年4月20日

新政府軍指揮官：板垣退助(他：薩摩藩、土佐藩、佐賀藩など)

旧幕府軍指揮官：西郷頼母、大鳥圭介、山川大蔵(他：会津藩、二本松藩など)

#### ・北越戦争・・・慶応4年5月2日

新政府軍指揮官：山縣有朋、黒田清隆

旧幕府軍指揮官：牧野忠訓、河井継之助

#### ・函館戦争(五稜郭)・・・慶応4年10月21日(新政府軍勝利・戊辰戦争終結)

新政府軍総督：清水谷公考 海陸軍参謀：山田顕義 陸軍参謀：黒田清隆

旧幕府軍総裁：榎本武揚 海軍奉公：荒井侑之助 陸軍奉公：大鳥圭介



←五稜郭

古屋佐久左衛門  
(衝鋒隊総督) →



## 調査②【立身出世】

2つめの疑問は、増岡審吉は農民出身だった訳ですが、どうやって刀を取って戦うにまで位を上り詰めたのでしょうか。

私たちの調査と推測によると、増岡審吉は15歳で若山松円寺住職の弟子となりました。この時代の僧侶というと高い位に位置します。

そのため、増岡審吉は寺の僧侶になり、身分を上げて戦ったと推測できました。この社会的に地位を認められることを、立身出世といいます。

## 調査③【関連人物】

3つ目に、増岡審吉（池村藤吉）に関連する人物を調査しました。様々な資料から得た情報を基に調べ、増岡審吉に関わる人物たちの生き立ちを調べました。

- ・雲井龍雄・・・米沢藩士。増岡審吉の上司にあたる。

慶応元年に江戸に派遣され、任期終了後江戸に残り、三計塾に学ぶ。

初めは維新政府に仕えていたが、新政府の東征が東北に及ぼうとするや、抵抗を決意。地元を味方し、旧幕府軍に加勢。旧幕府軍らの救済と称し、同士を集め、密議をしていたが、雲井の提唱する明治新政府転覆計画は事前に発覚してしまい、捕まる。

東京小塚原にて斬首された。

- ・大鳥圭介・・・幕臣、官僚。増岡審吉の軍のリーダー。

幕府陸軍最強部隊だった伝習隊一の戦術家。戊辰戦争で主戦論を唱え、伝習隊を率いて江戸を脱走し、宇都宮、今市、会津を転戦する。仙台にて榎本武揚と合流して蝦夷に渡り、函館政権の陸軍奉行となる。新撰組副長・土方歳三らと共に函館五稜郭で戦う。また抵抗するが、投獄される。

戦争で連敗しても泰然としており、常に笑顔を失わなかったと言う。五稜郭の戦いでも、敗北が決定的になった後、あくまでも徹底抗戦を主張する同僚に「死のうと思えば、いつでも死ぬ。今は降伏と洒落込もうではないか」と開き直って降伏を受け入れた。

出獄後も、明治政府に出仕し、開拓使御用掛を任せられ、学習院院長になるなど国のために尽力。

明治44年6月15日、食道ガンで亡くなった。80歳。

- ・榎本武揚・・・武士、幕臣、政治家。増岡審吉の軍のリーダー。

品性卓越した知識人。旧幕府軍を率いて、鳥羽伏見で敗北。新政府が江戸を占領すると、新撰組や奥羽越列藩同盟軍、桑名藩藩主松平定敬（松平容保の弟）らを収容し蝦夷地（北海道）に逃走、函館の五稜郭に拠り、蝦夷島政府を設立して入札の実施により総裁となった。

函館五稜郭にて降伏。入獄されたが死刑になることはなく、新政府軍の助命活動により2年半で釈放された。その後さまざまな仕事、位や勲章を与えられ、国のために尽力を尽くした。

明治41年7月、病にかかり、10月26日に没した。

#### 4. 調査を終えての反省

調査を終えての反省として、小国町出身の人物から、それに関わった人物まで、広い範囲で調べることができました。小国町出身の増岡審吉は五稜郭での戦いなど有名な戦に関わっていて驚きました。

私達が調べた『増岡審吉』という人物は、偉人といっても一人で国を動かすような壮絶なことをした人物ではありませんが、この人物の背景には歴史的にも有名で、現代にも知られているような出来事がたくさんありました。小国町出身で、函館戦争などの有名な戦争で戦った人物がいることを知りました。

この発表を終えてからも、自分の関心のある歴史の出来事を調べたりしていきたいです。

# 「小国の歴史」

班員 阿部雅裕 伊藤拓磨 小關寿舞 今一貴

## 1. テーマ設定の理由

私たちは、小・中・高と歴史のことを調べたり、勉強したりしていくうちに、この私たちが住む小国やその周辺の地域にも、有名な武士がいないかと思い、このテーマで学習を進めていくことにしました。

## 2. 調査の概要

- (1) 小国の武士の身分制度と代官の仕事
- (2) 小国町と上杉家との関係
- (3) 上杉謙信について
- (4) 伊達政宗について

## 3. 調査の結果

- (1) 小国の武士の身分制度と代官の仕事

### 【身分制度について】

小国の武士の身分制度は、上杉藩の上級武士である侍組から選ばれた御役屋将（城代）1名が最高責任者である。

その下に、下級武士である三挾持方が任命される下士20名がおり、さらにその下に、卒身分の武家奉公人からなる足軽30名がいたとされます。この足軽は半分農民・半分武士のような存在であり、小国の地元民が譜代（世襲的に仕える者）として採用されていたようです。

身分は、大きく上から上士、下士、卒の順に分かれていました。

上士と下士とでは、言葉遣いが違い、通婚関係もなく、下士の最下級から最上級に出世することは出来たが、上士になることは出来ず、出来たとしても極めて稀なことでした。

しかし、時代が進むにつれ、能力のある下士が世に出る機会を得ると同時に無力なる上士の没落が進んでいきました。

小国の武士には、2つの組織があり、代官は基本的に民政関係を行い、城代は警備関係を行っていたそうです。

### 【代官の仕事について】

今の小国小学校の場所に代官所があったそうです。その代官の仕事は、「年貢の取り立て」、「荒地の開発」、「土木工事における人足調達」、「風紀の取り締まり」など色々な仕事をしていました。

代官はさほどえらくなく三挾持方から選ばれていました。代官の下には掛役が下士20名のうちか2、3名選ばれていました。その下に足軽30名のうちから7名が代官所に所属しました。そのほかに、年貢の確定と収納です。行政や治安・裁判も重要ですが、ほとんどは幕府なら勘定所や評定所の裁定を仰ぐ形になります。意外に代官の権限は小さかったそうです。

江戸町奉行が死刑を下す場合でも、評定所で寺社奉行や勘定奉行と合議し、下役に命じ御定め書などから判例を調べた上で、裁きを下しました。

## 小国・・・2つの組織

代官 と 城代

↓↓

↓↓

民政関係

警備関係

### (2) 小国町と上杉家との関係

昔、小国町は上杉家から見てとても重要な場所だったため、上杉家から小国町に対して城代となる役人を送ったり武器や人を置いたりしていました。文化七年(1810年)小国の城代には鎧や槍さらには鉄砲が装備されていました。鉄砲は十匁筒1挺、五匁筒30挺の合計31挺だったようです。(1匁=約3.5g)

小国町には、武器が置かれていたことから軍があったことがわかりました。そして、この小国町に城代が置かれていたことは、極めて特別だったということもわかりました。

### (3) 上杉謙信について

戦国時代における越後の大名。血液型はAB型。上杉氏の下で越後の守護代を務めた長尾氏出身で初名は長尾景虎(ながおかげとら)。兄である晴景の養子となって長尾氏の家督を継いだ。主君・上杉定実から見て「正妻の甥」且つ「婿の弟」にあたる。のちに関東管領上杉憲政から上杉氏の家督を譲られ、上杉政虎と名を変えて上杉氏が世襲する関東管領に任命される。後に將軍足利義輝より偏諱を受けて最終的には上杉輝虎と名乗った。周辺の武田信玄や北条氏康や織田信長や佐野昌綱らと合戦を繰り返した。特に五回に及んだとされ

る武田信玄との川中島の合戦は、後世たびたび物語として描かれており、よく知られている。

自ら毘沙門天の転生であると信じていたとされる。後世、越後の虎とも越後の龍とも呼ばれる。

#### (4) 伊達政宗について

伊達政宗は、奥州の戦国大名。陸奥仙台藩の初代藩主。幼少時に、患った疱瘡により右目を失明し、また、戦国屈指の教養人として、豪華絢爛を好むことで知られていた。諱の「政宗」は伊達家中興の祖といわれる室町時代の第9代当主・大膳大夫政宗にあやかっただけで、この大膳大夫政宗と区別するべく藤次郎政宗と呼ぶことも多い。

秀吉の小田原征伐のとき、参陣に遅延したのは、奥州とくに新たに手に入れた芦名家領士の計略多端の故と弁明している。佐竹氏一派と対抗し、同盟関係にあった後北条氏と手を結んで秀吉を倒そうとした。秀吉は、伊達氏を従えて奥州仕置を行った。また、伊達家を中心に奥州の諸大名の連合軍を組織し後北条氏と連携、徳川家康ら豊臣家中の不穏分子の蜂起を待つという構想も持っていたようだ。

## 4. まとめ（全体）

今回、私達は地域文化学を通して3つのテーマについて調べることにしました。初めに「小国の武士の身分制度と城代・代官の仕事」について調べました。パソコンや図書館、大学の先生の話を通して調べていく中で、小国にも武士がいて武士たちの中でも身分制度があったことがわかりました。そして、代官の仕事を調べていたら、代官は意外とたくさんの仕事をしていて、大変な役職だった事がわかりました。その他にも、城代の事や、御役屋将の跡地は小国小の場所であることもわかりました。このことから、小国町はいろいろ栄えていたのだと感じました。

次に、2つ目のテーマである「小国町と上杉家との関係」については、調べた結果、昔小国町には上杉家から城代として役人を送ったり、武器を送ったりしていたこともわかりました。このことは、極めて稀なケースだということも知ることができました。このことから、小国町は、昔、上杉家とのかかわりが意外と多くあり、特別な場所だったということがわかりました。

3つ目のテーマである上杉謙信については、上杉謙信は晴景の養子となって、長尾氏の家督を継いだ事がわかりました。そして、自ら毘沙門天の転生と信じられていたとされています。後世、越後の虎とも越後の龍とも呼ばれていたそうです。

最後に、4つ目のテーマである伊達政宗については、伊達政宗は、奥州の戦国大名で、陸奥仙台藩の初代藩主でした。幼少時に疱瘡により右目を失明しました。伊達政宗は、以前名前間違いを防ぐために、名前を藤次郎政宗と呼ぶことも多々あったこともわかりました。この話から政宗は、幼少時、大変な思いをしたけれど最終的には、偉大な偉人にな

ったのだと思いました。

私たちは、この4つのテーマを通して、昔の小国町は意外と有名だと感じました。この小さな町でも存在感があった小国町を私たちは誇りに思います。

私たちは、この地域文化学を通して改めてこの小国町の存在感を知ることができました。今回の学習は、私たちにとってとても意味のある学習だったと感じました。私たちは、こんな小国町を心から誇りに思います。そして、この学習が私たちの高校生活の役に立てられたらいいなと思いました。

## 5. まとめ（個人別）

（阿部雅裕）

今回、私は地域文化学を通して小国の歴史についてたくさんのことを学ぶことができました。小国に武士がいるかわからなかったけど、調べていくうちに、小国にも武士がいるということがわかりました。小国にも伊達政宗や上杉謙信はかかわりがあったということもわかりました。

私が今回小国の武士について調べてみて、まだ調べてみたいことがたくさんあったので、これからも調べていきたいと思いました。

（伊藤拓磨）

今回、この地域文化学で、私たちは、「武士」という大きなテーマで調べ学習をしました。この学習を通して私は、小国町は昔、意外とたくさんの町と関わりが多くあったことがわかりました。その他にも、代官の仕事や有名な偉人との関係についてもいろいろ知ることができました。この地域文化学を通して、私たちは、私たちが知らない昔の小国町についてたくさんを知ることができたのでよかったです。そして、今回の学習を通して学んだことを、これからの生活に生かしていけたらなと思いました。

（小關寿舞）

今回、地域文化学で小国町の歴史を調べてみて私が一番驚いた事は、徳川家康や伊達正宗、上杉謙信といった戦国武将がこの小国町と深い関わりがあった事でした。

また、小国町に存在した武士に身分があった事にも驚きました。今回、地域文化学を通して調べてみて私は、小国町と色々な人物や身分に関してとても詳しく深く調べられたし、今まで知らなかった事がこの地域文化学を通して知れたので良かったです。これからのいろいろな歴史について調べて行きたいと思いました。

（今一貴）

今回の地域文化学を通して、私は小国の歴史について深く調べることができました。調べていく中で、小国町も徳川家康や伊達政宗とも深く関係があることが分かったし、小国

の武士にも身分制度があることがわかりました。小国にはいないと思っていた武士もいることがわかりました。

今回の学習を通して、私はより詳しく小国の歴史について調べることができました。今回学んだことを、これからの学習に生かしていきたいと思いました。



御役屋将の跡地は今の飯綱神社から小国小学校の一带にある。(小国小学校の写真)



御役屋将の跡地は今の飯綱神社から小国小学校の一带にある。(飯綱神社の写真)



上杉謙信



伊達政宗

## 「小国の洞窟を調べて」

班員 船山健吾

### 1. テーマ設定の理由

なぜ私が小国の洞窟について調べたかという、小国は面積の約 94% が森林に囲まれているということもあり、ひょっとして洞窟がたくさんあるのではないかと考えたからです。

もうひとつは、近くに洞窟らしきものがあって、それを思い出したからです。また、小国の歴史も洞窟と何らかの深い関係があるのではないかと推測したからです。

### 2. 調査の概要

- (1) 布施先生からもらった文献を読み取って
- (2) 実際に行ってみて
- (3) インターネットからの情報収集

### 3. 調査の結果

- (1) 調べた洞窟
  - ・片洞門
- (2) 何年から何年まで利用されたか。また、誰が開通させたか。
  - ・明治 19 年（1886）に開通し、昭和 33 年（1958）廃道
  - ・三島通庸（初代山形県令）
- (3) 開道の理由
  - ・この片洞門を開道する前、旧越後街道があり、近代には不適當な険道であったため、荷馬車も通行可能な新道を開削させた。その後、明治の時代から改良を重ねていき、かなり通りやすくなった。
- (4) 「片洞門」という名前の由来
  - ・開通する際に、道幅をとるために、岩山を削る必要があった。しかし、巨大な岩塊を全て取り除くのは困難であるため、必要最低限の通行範囲を削り抜き道幅を確保した。その結果、頭上に大きく岩が被さる地点が多く生じ、

片洞門と呼ばれた。

(5) 現在の片洞門

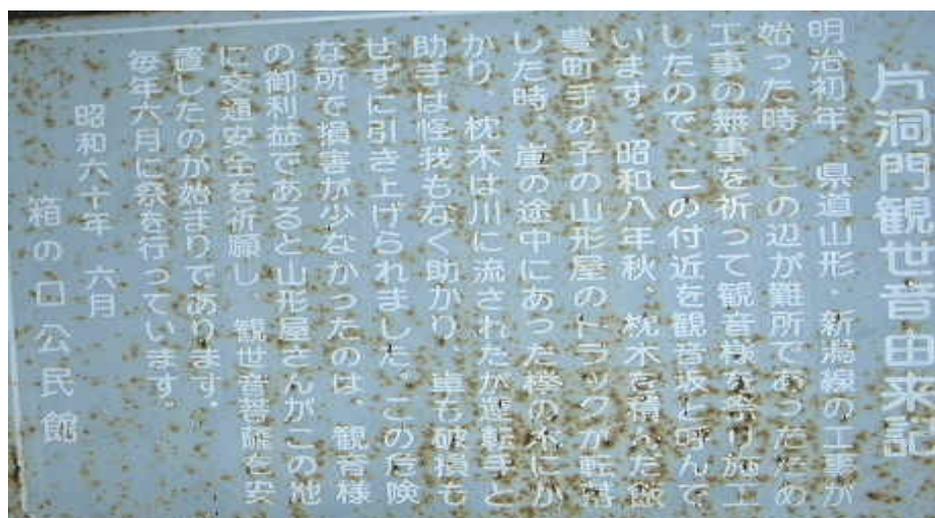
・現在は遊歩道となっていて路傍には蛇神が祀られている。穏やかなたたずまいとなっているといえよう。しかし、立ち入り禁止の看板がある。

4. その他

・明治初年の開削時より観音様を祀って工事を始めたので、観音坂という所がある。昭和8年にトラックが道を外れ転倒しかけたが、木にかかり乗員は一命を取り留めた。これも観音様のおかげだということについて記した表示板が設置されている。

5. 学習をして

・私はこの学習をして、片洞門は、小国町の重要な主要道となっていたことがわかりました。写真を見て、あれほど荒れていた岩山を、5年という長い年月をかけて荷馬車が通れるまで整備した当時の工事者たちの努力は、並大抵のものではないと感じました。片洞門は、すぐそばが断崖絶壁になっており、かなりの危険がともなっていたと思いました。



片洞門観世音由来記



片洞門入口付近



蛇神

さらに片洞門がつづく・・・

## 「羽越水害について調べる」

班員 林 洸也

### 1. テーマ設定の理由

私が羽越水害について調べようと思ったのは、この水害が小国町に甚大な被害を与えたと聞いてこれは小国町の最大の災害だったのではないかと考えたからです。

### 2. 調査の概要

- (1) 布施先生からの資料
- (2) 「羽越水害の記録」などの文献の確認
- (3) インターネットによる調査

### 3. 調査の結果

- (1) 水害が発生した日時

1967年（昭和42年）8月28日未明

- (2) 羽越水害による被害

- ・死者 : 8人
- ・負傷者 : 137人
- ・流出家屋 : 167戸
- ・床上浸水 : 10,818戸
- ・床下浸水 : 11,066戸
- ・農地等の浸水 : 13,180ha  
(東京ディズニーランド&ディズニーシー約82個分)

- ・被害総額約226億3,800万円

(昭和42年当時の大卒初任給の平均は26,200円)

※現代の被害総額に換算すると約641億1,000万円

(平成17年度の大卒初任給の平均は193,900円)

- (3) 水害当日の降水量

1967年8月28日 山形(小国)

1日当たりの降水量 533ミリ

1時間当たりの降水量 70ミリ

1日の雨量533ミリ（小国）は、山形気象台開設以来の記録です。小国の年間の降水量はおおよそ2,100ミリですから、わずか1日でその4分の1を降らしたことになります。

#### （4） 水害当日の様子

昭和42年（1967年）8月28日早朝から、ゆっくりと上昇を続けていた各河川の水位は、28日の夕刻から後半にかけ全川にわたり急激に上昇し、高畠町康野目、長井市小出、白鷹町広野の各量水標では、それぞれ28日24時から29日4時まで指定水位を超え、さらに雨勢が増すにつれ1時間に30～60cmと急上昇し、29日朝までには続々と警戒水位を突破するに至りました。

#### （5） 大雨の原因

- ・オホーツク海から上層の寒気が三陸沿岸へ南下してきたため、上層の日本海側の暖湿気流と組み合わされて、大気の成層が新潟付近でかなり不安定となったこと。
- ・新潟レーダーエコー図で降雨帯がきわめて細い帯状をしていることと、当時の日本海方面の気流が850ヘクトパスカルであったことから考えて、日本海でかなり強い収束、したがって強い水蒸気の補給と上昇流の存在が考えられたこと。
- ・降雨帯が日本列島の走向に略直角であったことは、狭い地域に集中して降ったことに関係があると考えられる。内陸部に高い山脈があるため海岸からわずかの距離のところに出してしまったということ。

以上のような原因によって強い上昇気流が生じて、このような降雨域の移動が大きな災害の原因となったとされますが、その移動または経路の原因を説明することは困難だそうです。

## 4. 成果や今後の課題

今回、小国町の歴史と文化の中でも羽越水害についてのことを調べました。調査を行って見て、水害当時の様々なことを知る事ができました。中でも印象に残ったことはこの水害の原因となった雨が小国の年間の降水量の4分の1をわずか1日で降らすほどの大雨だったということです。また、当時の被害総額や水害の様子を写した写真などを見て、自分が想像していた以上に大きな水害だったんだと驚きました。

私は、今回調査して分かった羽越水害についての出来事を忘れないようにしたいです。

水害当時の写真



右岸がもぎ取られた小国大橋  
小国町側から小国小坂町方面をのぞむ  
(8月29日午前4時40分頃)

濁流を漕いで避難所へ



飯綱神社から、小芦5丁目付近をのぞむ  
(8月29日午前7時頃)

赤坂橋上流砂田付近一帯をうめた濁流



右岸がもぎ取られた小国大橋  
小国町側から小国小坂町方面を望む  
(8月29日午前4時40分頃)

土砂で埋まった砂田

## 「豊かな自然と小国の人々」

班員 高橋良季 今 駿平  
 佐藤清恵 齋藤真凜  
 八幡春菜 飯沢美里 猪野 光

### 1. テーマ設定の理由

飯豊連峰と朝日連峰の間に位置する小国町には、ブナの原生林や里山が広がり、豊かな自然があり、人々は古くからそうした自然を活かしながら生活をしてきました。ところが、小国町の人口は減り続けて、1955年(昭和30年)には約1万8千人だった人口が現在では9千人代になってしまいました。そうした小国町に住む私たちは、人口の変化を調べ、豊かな自然に囲まれた小国の人々の暮らしについて学び、未来につなげていこうとこのテーマを設定しました。

### 2. 調査の概要

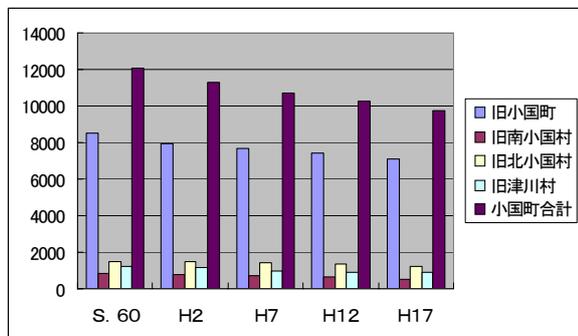
- (1) 小国町の人口及び世帯数の変化について
- (2) 小国町の過疎対策と「白い森構想」について
- (3) 樽口観光わらび園について
- (4) 森林セラピー基地の温身平について

### 3. 調査の結果

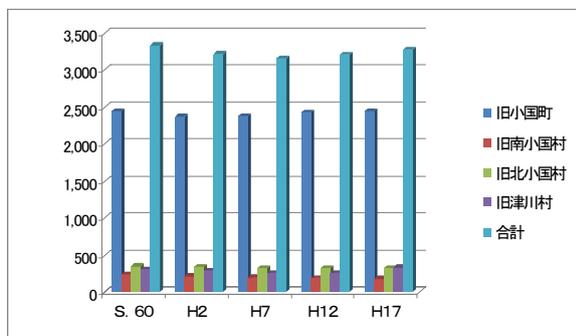
#### (1) 小国町の人口及び世帯数の変化について

##### ① 人口と世帯数

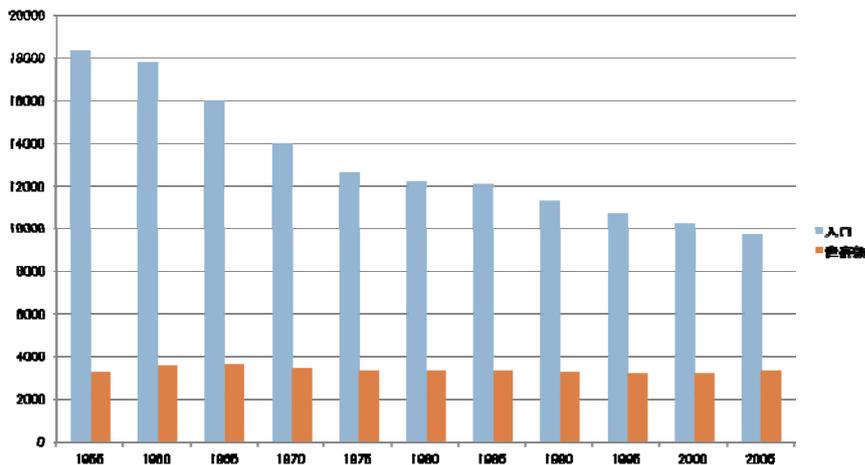
<旧町村別の人口変化>



<旧町村別の世帯数変化>



<小国町全体の人口と世帯数の変化>



## ② 人口と世帯数の変化に関する考察

1年1組17番 高橋良季

### 1、人口の変化

全体合計を見ると、人口は、昭和60年と比べると、約20%も減少している。地域別にみると、旧南小国村が最も減少率が大きく、昭和60年当時より、約35%も減少していることが分かった。また、平成12年～17年の間に旧南小国村と旧北小国村では、約10%も減少している。逆に、旧津川村では、近年5年間では若干増えている。各地域別で増加に転じているのは旧津川村のみである。全体の人口減少の様子を見ると、年間約1%のペースで減少している。ここ20年間での減少ペースに大きな変化はない。

今後、更に小国町の人口が減少することが予想される。また、旧津川村で、なぜ人口が増えたのか疑問に思った。

### 2、世帯数の変化

地域別にみると、最も減少していたのは、人口でも減少が激しかった旧南小国村で23%減少していた。しかし、他の地域では大きな減少はなく、旧津川村では、平成12年～17年の間に20%以上も増加して昭和60年よりも増加していた。全体的にみても、ここ10年間で増加に転じている。

この結果から小国町では、核家族化が急速に進んでいることが予想される。よって、1世帯当たりの家族構成の人数は減少していると思われる。

特に、旧津川村が著しい。個人的に、近年の旧津川村の人口、世帯数増加の要因の一つとして、横川ダム建設があるのではないかと思う。ダム建設の工事のための人員が一時的に小国町に住んでいるとすれば、横川ダムが完成したため、今後、人口は大きく減少することが予想される。

1年1組23番 八幡春菜

### 1.人口の変化

旧町村別の人口の変化を見てみると、旧北小国村以外は年々人口が減少している。特に旧小国町ではS.60を始め段々と減少し、H17には他の町村と比べて、一番少ない数値を示している事に気付いた。また、旧津川村のグラフではH12とH17を比べるとH17の方が人口数が僅かに増えている事が分かった。他の町村では減少しているのに対し、この村だけ増加しているのを疑問に思った。旧南小国村では、他の町村と比べて一番減少数が多かった。

### 2.世帯数の変化

人口が減少していたのに対し、世帯数では対して変わっていなかった。理由としては、一世帯に生活する人の数が比較的減少したのではないかと思った。

旧小国町と旧津川村は増加している部分はあっても減少している部分は少ない。それに対して旧北小国村はわずかに減少していた。また、旧南小国村が一番減少数が多くS.60とH.17ではかなりの世帯数の差があった。

1年2組2番 飯沢美里

### 1、人口の変化

全体の表とグラフを見ると昭和60年から平成17年にかけて人口が2354減っていることがわかった。その中でも、旧南小国村が一番人口が減少している。

### 2、世帯数の変化

世帯数はあまり変化していなかった。

地域別に見ると、最も減少していたのは、人口でも一番減少していた旧南村だった。

1、 人口の変化

S.60とH17の人口の差を出してみると、旧小国町1835減、旧南小国村290減、旧北小国村316減、旧津川村365減と旧町村全部人口は減少している。

また、指数を見てみると一番減少しているのが旧南小国村ということがわかった。小国町全体の合計の差からは2354の減になっているので、やはり人口は減少している。

2、 世帯数の変化

増加した年もあるが世帯数はあまり変化していなかった。また、人口の減少が一番多かった旧南小国村は世帯数の指数も一番小さかった。

3、 1・2から

疑問:人口減少しているのに、世帯数は減少していない。

予想:三世代家族が多い

1、 人口の変化

全体的に見て、人口は年々減っている。すべて合計すると、昭和60年から平成17年の間で、約3000人も人口が減っていることが分かった。最終的に平成17年までで一番指数の減少数が少ないのは旧小国町で83,7。二番目に少ないのは、旧北小国村で79,1。結果、小国町の人口はどんどん減っていつている。そのため、玉川・小玉川中学校が小国中学校に組み込まれたり、温泉施設の『ゆ〜ゆ』などが潰れてしまうなどの影響が出てしまっているのだと思いました。小国町は、この人口問題を何とかして解決しないと、どこかの市町村と合併したり、最悪の場合、小国町そのものがなくなってしまう可能性があるという悲しい現実が待っているということがわかりました。

2、 世帯数の変化

世帯数は、減っているところもありますが、旧小国町が100,0と変わりなく、旧津川村が、106,7と増えていることがわかりました。人口の方はどんどん減少していますが、世帯数の方は合計で98,2と少ししか減少していません。このまま世帯数が増え続けてくれることを願っています。ですが、核世帯家族だけが増えているのだとしたら、とても悲しいことだと思いました。

1. 人口の変化

4つの旧町村の人口を比べると旧小国町に人口が密集している。

旧小国町は小国の中心部だったと思う。また旧南小国町が一番減少率が高い。全体的に見ると村ごとに年が経つにつれて人口が減少している。特に旧小国町はS60年とH17年を比較すると約1500人減少している。でも旧津川村はS60~H12年までは減少していたがH17年は少しの差で増加している。なぜ津川村だけ増加しているのか疑問に思った。

2. 世帯数の変化

4つの旧町村を比較すると、ほとんどの旧町村はそんなに急激な変化はないと思った。きっと、子どもたちが成人してほとんど中心部へ移動して、老人だけがその地域に残ってしまったからだと思った。しかし、旧南はS60年に世帯数が235世帯だったのが、H17年は世帯数が181世帯に減少している。また、津川村はH12年に312世帯から259世帯まで減少していたのに、H17年になると333世帯を急激に増加している。

小国町合計はあまり差はなかった。津川村には何が起こったのか。

## (2) 小国町の過疎対策と「白い森構想」について（高橋良季・今 駿平）

### ① 小国町の過疎対策としての小国方式

小国町の人口は、2008年8月31日現在では9378人ですが、1955年には、18366人いました。しかし、年々人口が減少していき、1975年には12649人、2000年には10262人まで減少していきました。特に、1960年代が最も激しく減少しています。この現象は小国町だけではなく、日本各地で起こりました。この要因としては、日本の高度経済成長が挙げられます。この時期、1950年代の後半から1970年代初頭までは、都市部の工業地帯で重化学工業が発展して日本経済は飛躍的な成長を遂げました。そして、都市部で不足した労働力は、集団就職などによって日本各地の農村部から補われました。こうして、小国町でも若い人々を中心に多くの人々が都市部へ移住していきました。その結果、小国町でも人口が減少して過疎化が大きな問題になりました。

小国町では、過疎問題を打開するために、当時の小国町長を中心として小国町役場が「小国町生活圏整備構想」を1966年（昭和41年）に打ち出して、実行していきました。この構想は、町中心部と、長沢・五味沢と中心とする北部と、玉川・小玉川を中心とする南部、そして、叶水を中心とする東部との4つ地域を生活圏とするものです。この構想は、町中心部には病院や商業施設を設備したり、開発総合センターを設置して、周辺部とのネットワークを図ることによって、住民の生活をしやすくすることを目的にしていました。実際、この構想の実現によって、たとえば道路網も整備され、周辺部でも、道路の除雪も行われるようになりました。以前のように集落の人々が、病人を町中心部まで雪の中を歩いて運ぶこともなくなりました。

この構想が進められていた1967年（昭和42年）には羽越水害が起きました。そのこともあって、新潟県側にあった越戸の集落の人々は、町中心部に集団移転しました。また、冬の間、雪に閉ざされる東部の滝集落の人々も集団移住しました。小国町としては、それらの人々に町中心部に住んでもらうために、1970年（昭和45年）、幸町に町営住宅を建設しました。こうした小国町の過疎対策は「小国方式」と呼ばれ、全国的に有名になりました。

### ② 人口変化と小国方式に関する疑問と回答

#### 【人口と世帯数の変化についての疑問】

旧津川村の近年の人口増加の原因は何か。

【回答】横川ダム建設のために、作業員が一時的に移住していたため、人口、世帯数が増えていた。

#### 【小国方式についての疑問】

小国方式を実施したものの人口減少は止まらなかったが、それについてどう考えたのか。

【回答】少子化により、人口減少が止まらなかった。

（回答者：小国町役場総務企画課、佐藤さん）

### ③ 白い森構想について

白い森構想とは、小国町の優れた自然環境と資源を大切にしながら、計画的に保全、培養して、小国町全体で自然と人間の共存できる生活空間を創って行こうとするものです。この構想は、雪の「白」と、小国町に広がるブナの原生林の「白い」幹から『白い森』構想」と名付けられました。具体的には小国町に三か所の交流基地を設け、三つの地域に様々な施設を造り、それぞれを有機的に結びながら「交流と定住」の環境づくりを行うものです。また、この構想は、100年、200年という長い時間をかけて達成していくものです。三つの交流基地は、「朝日山麓交流ゾーン」（北部）と、「白い森公園中央

基地」(中央)と、「飯豊山麓交流ゾーン」(南部)との三つで、さまざまな施設が建設され整備されてきました。

## 施設一覧

### 1、朝日山麓交流ゾーン

～荒川リバーサイドパーク～

#### (1) 白い森交流センターりふれ

平成5年10月オープン。研修棟と宿泊棟がある。研修棟は、多目的セミナー室が3つあり、宿泊棟には50人が宿泊可能

#### (2) 白い森木工館

木などの自然の物を使った様々な体験ができる。訪れる人と地元住民の交流と、地域伝統技術を伝えることが目的。

#### (3) 白い森オートキャンプ場

平成7年夏にオープン。自然とのふれあいが楽しめる。

～小国白い郷土の森～

#### (4) ヨモギ平

約、185ヘクタールにも及ぶ広大なブナ林。ブナの森の営みを学習できる。

### 2、白い森公園中央基地

#### (1) 健康の森 横根

横根山麓に広がる、約180ヘクタールのブナ林。自然林の中にある、8.6キロメートルに及ぶ遊歩道のほか、研修、宿泊施設の森林体験交流センター、キャンプ場、森林学習館、バンガロー、観水広場がある。アウトドアを楽しむことができる。

#### (2) 町民健康保養基地

温水プールがあり、ウォータースライダーなどがある。保養、健康増進が目的。1年を通して利用可能。

#### (3) 横根スキー場

初心者から中級者まで滑ることができるゲレンデや、スノーボード専用コースがある。特に、ハーフパイプは日本ではじめて常設されたもので、大会なども開催される。

#### (4) 総合スポーツ公園

ナイター設備のある野球場、1周300メートルのグラウンド、砂入人工芝のテニスコート4面と、壁打ちコート1面が配置されている。また、冬には、一帯がクロスカントリーのフィールドになる。町民全員が、生涯スポーツの振興の場として多目的に利用されている。合宿施設「スポーツ交流センターアスネット」もある。

### 3、飯豊山麓交流ゾーン

～ふるさとファミリー村～

#### (1) 国民宿泊飯豊梅花皮荘、川入荘、飯豊山荘、天狗平ロッジ

飯豊温泉がある。郷土料理、山の幸、川の幸を楽しむことができる。

#### (2) 温身平

森林セラピー基地に指定されているブナの原生林。人気の登山ルートとなっている。

#### (3) 小玉川小中学校

地域住民の生涯学習の場となるコミュニティーカレッジ。また、都市間及び国際的な交流が展開される

施設として利用される。マタギ資料室も併用されている。

(4) 観光ワラビ園・イワナの養殖場

～ふるさと子ども村～

(5) ワラビ園

観光ワラビ園が5か所あり、シーズン中多くの観光客が訪れる。

(6) 横川ダム

平成20年3月完成。ダム湖を中心とした親水空間造り、水源地域整備計画の実施による地域の活性化が期待される。また、美しい水辺の風景も魅力。

④ 「白い森構想」と人口減少に関する疑問と回答

(1) 私は白い郷土の森について今まで全く知らなかったが、白い森構想の施設についての広報、アピールは、どのように行っていますか、また、アピール不足ではないのでしょうか。

【回答】アピールは、広報誌、ホームページ、4～5年に一回発行する町勢要覧、パンフレット、テレビ番組等で行っているが、細かいところまでは浸透していないかもしれない。しかし、小国町のキャッチフレーズである「白い森」は定着してきたと思う。アピールの方法については、皆さんにもお聞きしたい。

(2) この構想は、いつから実施されたのですか。

【回答】1990年（平成2年）から実施しました。

(3) 小玉川小中学校について、都市間および国際的な交流が展開されるとあるが、具体的には、どのようなことが行われるのですか。

【回答】平成20年3月閉校。他の学校のセカンドスクール、小玉川地区のコミュニティ機能や都市との交流また国際的な交流の機能を担っていた。かつては、インドネシアから小学生を招いていた。今後については、小玉川地区の人々と話し合っている。

(4) 横川ダムは完成しましたか。また、いつ完成しましたか。

【回答】平成2年に着工して、20年3月完成しました。東部で母施設として期待されている。

(5) 「白い森構想」の目的に「交流と定住」ということがありますが、これは、小国町の過疎や人口減少の対策ということですか。

【回答】交流による地域の活性化を促し、町全体の活力とする。交流によって、人々を定住させる。現在、都会の人の移住を進めている。都市部の人々の交流居住や日域居住も進めている。何よりも、町の活力を高めることが住民の定着を図ることにつながると思う。

(6) 「白い森構想」の成果はどのようなことですか。

【回答】「白い森構想」は町づくりの基本的な考え方なので、その成果はそれぞれの施策の成果ということになると思うが、施設の建設によって、交流が増えたり地域のリーダーが生まれたり白い森のイメージが定着したことなどは成果として挙げられる。外部からの評価としては、自治大臣賞、町農林水産大臣賞を受賞した。

(7) 白い森構想の今後の課題は、どのようなことですか。

【回答】施策ごとの個別的な課題が多いが、管理的な経費が増大しているにも関わらず客数が減少してきている問題がある。また、当初、沖庭地区に建設を予定していたぶな文化館は経費の都合でつくることができていない。

(8) 今後、過疎の進行や少子高齢化に対して小国町としてどのように取り組んでいくのでしょうか。

【回答】1950年代・60年代は全国の人口は増加していたにも関わらず、小国町では都市部へ人口が流出して過疎が進行した。その後は全国的な少子化によって人口が減少してきている。過疎の進行や少子高齢化は、難しいが大事な課題であると考えている。当面は現状を維持することが大事だと考えている。

少子化は、町だけの問題ではなく国全体の問題でもあり国の施策を待つ面もあるが、町としては、出産前検診の経費や乳幼児の医療費を軽減したりして子育て環境が良くなるように少子化の対策を講じている。

これ以上の過疎化・人口の減少は、集落の活力の低下をもたらすだけではなく地域によっては集落そのものが無くなってしまいう可能性にもつながる。集落がなくなることは、原風景や伝統、文化がなくなることにもなりとても大きな問題である。町が行った集落調査によると、生まれ育ったところを離れたくないという意見が強い。町としては、用水路や共有の山の管理、冠婚葬祭、互助などの集落としての機能をどのように維持していくかを課題としてとらえ、集落と町とをつなぐ集落指導員、公民館の修理助成などの集落支援事業を実施している。

(9) 新たに白い森構想に加えたいことはありますか。

【回答】加えるというより、小国町では山や森などの自然からの恵みを受けて生活してきた。例えば、豊富な水資源は、飲料水や農業用水として利用されて来ただけではなく、工業用水や発電にも用いられ、そのことによって町内には大手企業も1938年(昭和13年)に進出して経済的な効果を及ぼしている。そうした自然の恵みを活かしながら、社会の変化や社会情勢に合わせてどのように展開していくかを考えていく。具体的には、「白い森構想」のもとに10年ごとの町づくりの計画である総合計画を策定していく。

(回答者：小国町役場総務企画課、佐藤さん)

### (3) 樽口観光わらび園について(佐藤清恵・齋藤真凜)

#### ① <<疑問に思ったこと>>と回答(回答者：樽口観光わらび園 佐藤さん)

##### 1 いつ始めたのか？

昭和51年に、開園準備(下刈りなど)翌年昭和52年に、樽口わらび園が開園しました。樽口わらび園は、小国町で最初に開設された観光わらび園です。その時の入山数が、266人でした。



##### 2 わらび園を行っている目的は？

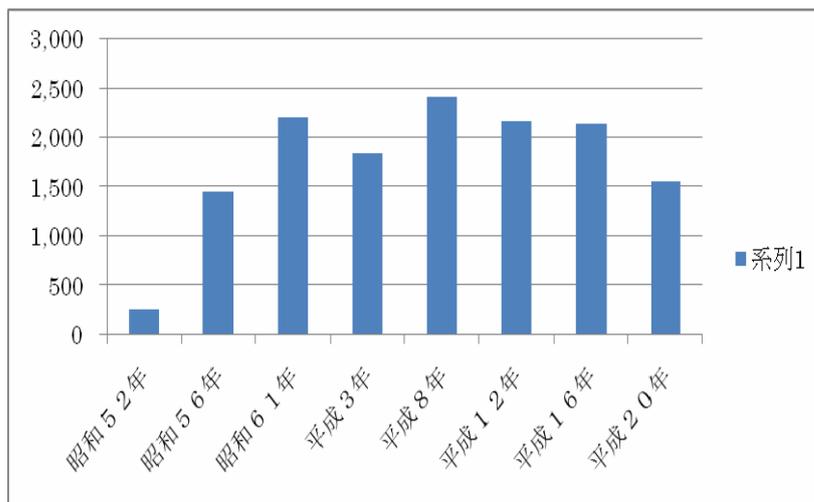
昔は、個人個人でワラビを採って収益を得ていたが、先代の組合長が「みんな平等にワラビを採った方がいい」と言ったのがきっかけでわらび園を始めたそうです。わらび園をやっているおかげでお金が平等にみんなに渡るようになったそうです。

##### 3 どのようにして運営しているか？

「わらび栽培組合」という組織を作ってそのもとで行っています。

#### 4 来客数は？

始めは1年で100人～1000人でしたが、今はどんどん増えてきて、最高が昭和63年の約2459人で、次に多いのが平成8年の2400人です。平均的に毎年1500人の観光客が来ています。



#### 5 収益は？

わらび園全体の収益は、1シーズンの来園人数×入山料で毎年異なりますが、1人当たり1シーズン

10万～20万円だそうです。1つの家族から3名が出ている場合にも、1シーズン10万～20万円の収入になるそうです。わらび園に出勤する日数が違うために若干の差がでる時もあるそうです。

#### 6 他のわらび園との違い

他のわらび園との違いは、無料で山菜汁を提供していることと、岩魚の塩焼き、山菜そば等の販売などを行っていることだそうです。また今年からは、ワラビそばも始め今では大好評だそうです。



#### 7 わらび園を行っていることについてどのように考えているか？

観光客の誘致を行うことで小国町観光分野において、活性化に繋げていきたいそうです。

#### 8 今後は？

地元の管理人たちが減少傾向にあるため、今後のことは検討中であるが、労力が続く限り継続していきたいそうです。

地元の管理人たちが減少傾向にある理由は、若い人たちが県外に出て行くためいなくなり、その結果年60歳以上のお年寄りが増えているからだそうです。

#### ② 考察

齋藤 真凜

私はわらびを食べるときは、普通にいただいたり、買ったりしてたのですが、今回わらび園を調べてみて、自分で採ってみんなで食べるのもいいかなと思いました。わらび園は、小国町の豊かな自然と、それを経営する人たちの苦労があって成り立つものなので、自然を大切にしていきたいと思いました。また、わらび園を経営するにあたって、さまざまな工夫をしていることもわかりました。その工夫は、小国町で採れる山菜を販売したり、山菜汁のサービスや、岩魚の塩焼きなど、わらびに関係しないで、小国町の料理も出したり販売することにより、来客数が増えるようにする事です。

佐藤清恵

私は、幼いころから夏になるとわらび園で働いている地域の人たちを見てきました。ですから、私は小学生までわらび園をやっているのは南部の足中や玉川方面だけなのだと思っていました。けれども、わらび園は、今や北部などさまざまな地域に広がっておりたくさんの方の地域でわらび園が増えていると思いました。樽口わらび園を運営することにより、小国町の観光分野の活性化に繋がるということに特に驚きました。

### (3) 森林セラピー基地の温身平について (飯沢美里・猪野光・八幡春菜)

#### 1. 温身平のブナ林について

温身平のブナ林は飯豊連峰の山麓に広がるブナの原生林で、磐梯(ばんだい)朝日国立公園内に位置する美しい天然林です。飯豊連峰の登山口として、また山菜やきのこ狩りをする場所として親しまれてきました。

温身平のブナ林はそのほとんどがブナの木であり、豊富な木の実を实らせ、ゼンマイなどの山菜、キノコ類、溪流に住むイワナなど、山の幸や川の幸を育んでいます。また、ブナの森は緑のダムの効果もあり、土砂崩れを防ぎ、流域一帯を潤しています。

小国町は以前から一般車両の通行を禁止して、保護してきました。

#### 2. いつ、どこが森林セラピー基地に認定したのか

平成 17 年 2 月 25 日に小国町が国土緑化推進機構に森林セラピーの申請書を提出しました。

(3 月 7 日) 正式に候補地として登録リストにノミネートしました。この候補地は全国で 31 箇所あり、現在では 27 箇所ノミネートしています。

(3 月 18 日) 国土緑化推進機構による生理実験対象地に選定され、同じ年の 7 月 28~29 日にかけて温身平と新潟市で行った結果、都市部と森林部では唾液中のストレスホルモン(コルチゾール)が森林部の方が薄まるということが分かりました。また、心拍の測定ではストレスが溜まったときに高まる交感神経が抑制され、リラックスしたときに高まる副交感神経が高まること、脳の活動が森林内部では鎮静化されていることなどが分かりました。

(18 年 1 月 23 日) 第 1 回小国森林セラピー検討委員会が開催されました。森林セラピーとは、森がもっている癒しの効果を生かして私たちが本来もっている心と体の元気を取り戻そうという取り組みのことです。また、森林の地形や自然を利用して健康増進やリハビリに役立つ森林療法のことで、現在注目されています。

(3 月 30 日) 第 2 回検討委員会が開催。小国町の振興として、白い森構想を行いました。また森林セラピー事業なども行いました。

(4 月 18 日) 第 1 期認定基地の公表が行われ、小国町の温身平が森林セラピー基地に認定されました。

(全国では 31 ヲ所)

#### 3. 森林セラピーとは

森林セラピーとは、森林浴効果でのストレス解消療法の事です。ドイツでは、120 年前から森林を活用した自然療法を行っている歴史があります。例として、水療法や運動療法などがあります。特徴としては、医療関係者が積極的に関わっています。

水療法=温冷水浴…温水と冷水に交互に浸かる事により血行を良くする

運動療法=森林散策…森林内をウォーキングする事によりリラックス効果を得る

#### 4. 小国町としての対応

温身平のブナ森では認定される前でも、登山者や近隣の温泉利用者に親しまれてきました。認定後、更に新たな便益施設の充実に努め、HPの立ち上げや宿泊施設の充実、イベントの開催などが行われました。(便益施設…宿泊施設などの設備)

## 5. 温身平での感想

私たち7名は、2008年5月27日(火)に実際に温身平に行ってきました。

[飯沢美里]

温身平を歩いて、山の中は涼しく緑がたくさんあり色々な種類の木があった。空気も綺麗で自然であふれていた。癒し効果があると聞いていたけれど本当に癒されたしマイナスイオンもすごかった。

[猪野光]

ひたすら歩いて疲れたけど、ミズナラやブナなどが見られたし、自然に触れられてよかった。それに、小国に住んでいるけど中々体験する機会がなかったので良かったです。

[八幡春菜]

人工的に作られた道や「けもの」道などもあり、自然そのものという感じがした。川や木がとても綺麗で清々しい気持ちになった。

## 6. 疑問と回答

1) 国土緑化機構とはどのような組織なのだろうか

【回答】森林に国民が参加する植樹祭・緑の募金を担当する組織です。

2) 便益施設にはどのようなものがあるか。

【回答】バイオトイレ、案内板、ピクトグラム(癒し効果についての案内板)、楽しみ方のヒントがかかれた看板、ベンチ、テーブル。今後の要望に応じて休憩所、通信用施設、川の水量についてなどの情報掲示板など設置を検討しています。

3) 魅力ある滞在メニュー作りの具体的な内容とはどのようなものか

【回答】二泊三日のプランを例として、一日目にマタギの学校にてマタギの人々の話を聞き、よさを考えてもらう。その後スタートアール(オプション)では星空散策などを行います。また、夕食では地元でとれた山の幸、川の幸を使用した食事を用意しています。

二日目では、森林セラピーアテンダントによる案内で森林セラピー基地を散策します。アテンダントおすすめのスポットなどもあります。

三日目では、体験メニューは三種類に分かれており、お好きなメニューを選択することができます。畑仕事体験、燻製づくり体験、クラフト体験があります。クラフト体験では、木工で自分の作成した作品を持ち帰ることができます。

4) 森林セラピー設定後の様子についての詳しい内容は

【回答】平日でも日中でも老若男女問わず、若い女性、カップル、親子などが訪れるようになった。設定前は温身平を通過するだけで来ていた人たちが、森林目的で訪れるようになった(目的の変化)

5) 町の活性化や過疎対策として人の呼び込みが温身平の森林セラピーへのねらいになっているが、このねらいは達成されているのか

【回答】始まったばかりでまだ数値的な効果が出ているわけではないが、町に少なからず活気が戻ってきたのは事実。

## 7. 語句の意味

◇交感神経(こうかんしんけい)

→自律神経系の1つで激しい活動を行っているときに活性化する。

◇副交感神経(ふくこうかんしんけい)

→自律神経系の一部を構成する神経系である

#### ◇リハビリテーション

→身体に障害を受けた人などが、再び社会生活に復帰するための、総合的な治療的訓練。  
身体的な機能回復訓練のみにとどまらず、精神的、職業的な復帰訓練も含まれる。  
本来は社会的権利・資格・名誉の回復を意味し、社会的復帰・更生・療育の語が当てられる。

#### ◇便益施設(べんえきしせつ)

便益：便宜と利益、都合がよく利益のあること

→要するに宿泊施設等があてはまる

◇水療法(すいりょうほう)：温冷水浴→温水・冷水と交互に浸かり温度差により血行を良くすること。

運動療法：森林散策

→読んで字の如く森林を散策する

#### ◇天然林と原生林

→天然林:植林によらず自然に生育した森林。

原生林:昔から現在まで一度も人手が加えられたことのない自然なままの森林。

#### (4) 「豊かな自然と小国の人々」に関する考察

齋藤真凜

豊かな自然をテーマにして小国町を調べた結果、小国町にはさまざまな変化や自然を使った施設があることがわかりました。

まず、初めに小国町の人口の変化を調べてみたところ、全体的に旧町村全部が減少していました。この原因は若者だけにかかわらず、家族全員が町中心部に移転したからです。また、旧津川村だけが人口増加していました。その原因を調べたところ、横川ダムの建設のために、作業員が一時的に移住していたためだということもわかりました。次に、白い森構想について調べたところ、白い森は、雪の「白」と小国に広がるブナの原生林の「白」からできており、とてもいい名前だと思いました。特に温身平に行って森林セラピーを体験してみて、私はとても心が落ち着く場所だと思いました。また、白い森交流センター「りふれ」や、白い森オートキャンプ場などが建設され、小国町の人口増加につながるようなことも行っていました。

しかし、今の小国町は人口減少にあります。その原因としては、少子高齢化だそうです。このように、小国町で人口増加につながるようなことを行っているのに人口減少になってしまうということは大きな問題だと思います。そこで小国町がとった方法として、「小国方式」があげられます。小国方式とは、1967年に起きた羽越水害で新潟県側にあった越戸の人々が町中心部に移動し、また、冬の間、雪に閉ざされる滝集落の人々が中心部に移動したのが小国方式です。中心部とは幸町のことで、幸町に町営住宅を建設し、そこを移動した人々の住宅にしました。この対策は「過疎対策」です。しかし私は中心部に移動しただけで過疎化は防げるのかと思いました。

最後にわらび園を調べて、わらび園は、わらびだけでなく小国の山菜なども売っていることがわかったし、小国町の豊かな自然とそれを経営する人たちの苦労があって成り立つものだとわかりました。豊かな自然というテーマでこのように、私たちの小国町を調べることができてよかったです。また、たくさんの小国町のいいところがわかったのでよかったです。

#### (5) 終わりにあたって

回答していただいたり資料を提供していただいた、小国町総務企画課の佐藤友春さん、小国町産業振興課の渡部寿郎さん、樽口観光わらび園の佐藤和美さんに感謝します。ありがとうございました。

## 「さまざまな保健医療福祉専門職について」

班 員 今 麻 弥 木 村 恵 舟 山 麻 依 渡 邊 知 美  
五十嵐 梓 島 貫 成 美 島 貫 菜 摘 後 藤 ち と せ

### 1. テーマ設定の理由

「保健・医療・福祉」は毎日の生活が健康で充実したものであるために欠かせないものですが、私たちはそれらについてあまり詳しく知らないことに気づきました。そこで、保健医療福祉専門職にはどのような職業があるのか、どのような仕事をしているのかを深く知りたいと思いました。そして、それらの職業の人たちはどのような場面で自分たちの生活に関わってくれるのか、私たちからどのように関わればよいのか、専門職の間ではどのような「連携」をしているのかということ学習し、これからの小国町の保健医療福祉がよりよいものになるためにどんなことができるかを考えていこうと思いこのテーマを設定しました。

### 2. 調査の概要

- (1) 保健医療福祉専門職についてインターネットなどを利用して調べる。
- (2) 具体的なケースを仮定して、実際生活での保健医療福祉専門職とのかかわりを調べる。
- (3) 小国町の保健医療福祉の現状を調べる。
- (4) 将来の保健医療福祉の形態について考える。

### 3. 調査の結果

#### (1) 保健医療福祉専門職について

インターネットを使って職種を調べたり、新潟医療福祉大学のオープンキャンパスに参加したりして、保健医療福祉専門職への理解を深めることができた。調べた職業は一覧表にまとめた。今後、社会のニーズに応じて新しい職種が増えることも考えられる。

参考資料 (一部)

13歳のハローワーク公式ページ (<http://www.13hw.com/>)

Wikipedia (<http://ja.wikipedia.org/wiki/>)

医療の仕事情報室 (<http://www.kaigo-fukusi.com/iryou/>)

#### (2) 実際生活における保健医療福祉専門職とのかかわり (ケーススタディー)

##### ① ケース 1 高齢者の保健医療福祉

< 状況設定 > 老老介護 (高齢者が高齢者の介護をしなければならないこと。)

80歳女性→糖尿病と高血圧で以前から病院に通院して治療を受けていたが、3ヶ月前に脳梗塞で倒れ、緊急入院した。命はとりとめたが、軽い右麻痺と言語障害が残った。

< 現在 > 病院を退院し、自宅で82歳の夫と2人で生活している。

- ・ 食事、排泄は自力で可能。
- ・ 移動には杖や車椅子を使う。
- ・ 入浴は特別養護老人ホームのデイサービスを利用。(週1回)
- ・ 右手の機能、歩行、会話の回復のためリハビリテーションに通っている。(週2回)

<必要な支援>

- ・リハビリテーション…右手の機能、歩行機能、会話の回復。
- ・住環境…家の玄関、階段に手すりをつける、トイレを和式から洋式に改造するなど。
- ・生活…糖尿病、高血圧が悪化しないように食事に気をつける。  
趣味を楽しむなどして、生きがいのある生活ができるようになる。  
夫の負担(家事、介護)を軽減する。

<支援にかかわる保健医療福祉専門職>

- ・病気の治療…医師、看護師、薬剤師
- ・リハビリテーション…理学療法士(基本的運動能力回復)、  
作業療法士(右手の機能回復)、言語聴覚士(会話)
- ・生活…介護福祉士、ホームヘルパー、保健師
- ・相談・サポート…社会福祉士、ケースワーカー

②ケース2 母子の保健医療福祉

<状況設定> 核家族(母親への負担が大きい状態)での育児

28歳女性→10ヶ月前に女兒を出産。

女兒は2490gの低出生体重児であり、内反足(足首が内側に向いている)の傾向がある。夫と生まれた女兒との3人家族で、近くに手伝いを頼める人がいない。

<現在> 出産後、仕事は育児休業中。

- ・母乳を与えて育児をしている。
- ・女兒の歩行訓練のためリハビリテーションに通っている。(月2回)
- ・女兒の予防接種(ポリオ、三種混合、BCG)は済ませた。
- ・女兒に乳歯が生え始めた。
- ・育児について、不安や悩みがある。

<必要な支援>

- ・食事…母乳の与え方、離乳の進め方
- ・指導…歯磨きの仕方、今後女兒に必要な予防接種や健康診断について。
- ・託児…仕事に復帰する場合の女兒の世話。
- ・リハビリテーション…女兒の歩行訓練

<支援にかかわる保健医療福祉専門職>

- ・出産…医師、看護師、助産師
- ・食事…管理栄養士、助産師、保健師
- ・リハビリテーション…理学療法士(基本的運動能力回復のため)
- ・指導…歯科衛生士(乳歯の歯磨きの仕方)、保健師(予防接種や健康診断)
- ・託児…保育士

### (3) 小国町の保健・医療・福祉の現状

①概況（小国町；総人口9,411人、3,231世帯）

○高齢者（年齢65歳以上）

・高齢者のみで構成される世帯…388世帯（うち寝たきり高齢者がいる世帯は4世帯）

・高齢者数

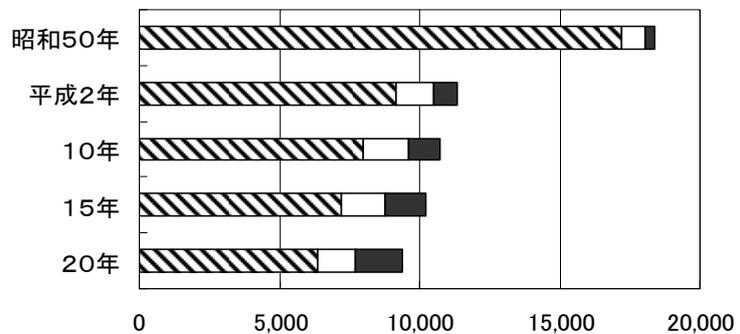
平成20年度

…3,064人

町内全人口の32.6%

（県内3位の高齢化率）

在宅高齢者の推移(単位;人)



○就学前児童（0歳から5歳までの子ども）

・人数…394人

本庁(小国中心部)の児童数が300人以上いるので、ほとんどの子どもが小国地区に住んでいることになる。他の8地区(伊佐領、沖庭、白沼、東部(叶水)、南部(玉川)、南部(玉川 足中)、南部(小玉川)、北部)では50人にも満たない状況で、就学前の子どもが一人もいない地区(南部;玉川・足中)もある。

#### ②高齢者の保健・医療・福祉

(i) 小国町役場 健康福祉課への聞き取り調査より

・65歳以上の一人暮らし高齢者の割合が、9.9%で県内一位(平成20年4月1日現在)

・小国町役場健康福祉課では、月に2～3回行われる介護認定審査会で、要支援1～2、要介護1～5のクラスに分ける。

<要介護度について>

要介護度	心身の状態
要支援	日常生活を送る能力は基本的にあるが、歩行などが不安定。浴槽の出入りなどに一部介護が必要。
要介護度1	立ち上がる時や歩行が不安定。排泄や入浴などに一部または全介助が必要。
要介護度2	1人で立ち上がったり歩けないことが多い。排泄や入浴などに一部または全介助が必要
要介護度3	1人で立ち上がったり歩いたりできない。排泄や入浴、着替えなどに全介助が必要。
要介護度4	日常生活を送る能力がかなり低下。入浴や着替えの全介助、食事のときの一部介助が必要。
要介護度5	生活全般にわたって全面的な介助が必要。意思の伝達がほとんどできない場合が多い。

・通所型介護予防事業

運動機能の向上や、家への閉じこもり、認知症の予防を目的として行う。

→地域包括支援センターが作成した介護予防サービス・支援計画(介護予防プラン)で決定した高齢者が対象になる。

・高齢者くらし応援

病弱などのために、自力で除雪を行うことができない65歳以上の一人暮らし高齢者または高齢者夫婦世帯に対して、生活援助員を派遣する。

→対象世帯；137世帯 実利用世帯；123世帯

・介護用具のサービス

ベット、車椅子などの貸し出し、手すりの設置、トイレの改造などへの金銭的援助

→サービス利用者；1004人 利用回数；3456回

(ii) 介護老人福祉施設 さいわい荘への聞き取り調査より

○現在の利用状況

- ・要介護3～5の人が主に利用している。
- ・生活全般の介護、家族を招待しての行事(季節のイベントなど)を行っている。
- ・現在は入所待機の状態になっている。

○さいわい荘に勤務している人の職種

- ・介護員(介護福祉士、ケアマネージャー、社会福祉士)
- ・事務員 ・相談員 ・管理栄養士、栄養士 ・機会のなどの管理員

○介護士の仕事

- ・ミーティング ・入浴介助 ・排泄介助 ・入所者の方とのコミュニケーション
- ・行事の運営
- ※日勤、早番、遅番、夜勤がある

○他の施設との連携

- ・小国町立病院→医師による回診、回診時の情報交換
  - ・温身の郷(介護老人保健施設)
  - ・満天の家(デイサービスセンター)
- } 施設を変えるときの情報交換

③母子の保健・医療・福祉

(i) 小国町役場 健康福祉課への聞き取り調査より

○家族構成

- ・小国町の家族構成では核家族が最も多く、3世代家族が少なくなっている。
- ・小国町の就学前児童のいる家庭の4割の母親が常勤で勤めており、約8割が就労している。

○出産について

- ・大半が小国町立病院だったが、2008年8月からは小国病院で出産することが出来なくなっている。→町立病院に産婦人科の医師がいなくなってしまった。

○小国町の保健師について

- ・保健師は、妊娠届を出した時(母子手帳を貰った時)から妊婦にかかわる。
- ・遊びを学ぶ環境の整備で、「育児サークル支援」というものがある。
- ・児童虐待の未然防止・早期発見のための家庭訪問。また食育の推進が重要である。

(ii) おぐに保育園への聞き取り調査より

○育児の支援…0～5歳児

- ・平日 7:30～18:00  
→保護者の状況によって多少の時差がある(居残り保育など)。
- ・土曜日 第1、3、5 → 平日と同じ時間帯で可能  
第2、4 → 半日保育(午前中)
- ・一時保育(保育園に入園していなくても可能)  
→事前の申し込みが必要
- ・学童保育(小学校1～3年までの児童、学校が終わってから)

○親との連携・情報交換

- ・園だより、クラスだよりの発行(右写真)、連絡帳(年齢ごとに異なる)のやりとり。
- ・5、10月に保護者との個別懇談会を行う。
- ・送迎の際の情報交換。



○保育士と保健師の連携

- ・保健師が保育園を訪問し、聞き取り調査を行う(年1回)。
- ・発育の遅れ、発達障害などの心配がある子どもがいた場合、保健師に相談する。
- ・保護者からの相談があった場合、保育士が支援相談を紹介することがある。

#### 4. 成果と今後の課題

保健医療福祉専門職を知るために職業調査を行いました。これまで知らなかった職業名を知ることができたり、似たような名前でもまったく違うことをしている職業や、逆にまったく違う名前でも、仕事の内容は大体同じ職業があることなどを知ることが出できたりしたので良かったです。医療・福祉の仕事は私たちが思っている以上にたくさんあることがわかったので、このことを将来に生かしたいと思います。

小国町役場健康福祉課、おぐに保育園、さいわい荘への聞き取り調査を通して、小国町では少子高齢化が進んでいて、高齢者の保健医療福祉、母子への保健医療福祉それぞれについて制度が整えられていることがわかりました。小国町は健康福祉課と町立病院、保育園と子育て支援センターがそれぞれ同じ建物内にあったり、老人福祉施設や老人保健施設、社会福祉協議会が近くにあったりするなど利用者にとって非常に便利な環境になっています。

設定したようなケースにおいて、支援してくれる保健医療福祉専門職は多くても2～3種類だろうと思っていたが、予想していた数よりもっと多くの専門職が支援してくれることがわかりました。このことから、保健医療福祉専門職は私たちが様々な方向から、それぞれの専門職がお互いに連携して私たちを支えてくれていることを知ることができました。

今後は、小国町の保健医療福祉がさらによいものになるにはどうしていけばよいのか、自分たちにできることはあるのか、などをいつも意識して生活していきたいと思います。

保健医療福祉専門職 職種表 (50音順)

職名	分野	仕事の内容
あん摩マッサージ指圧師	医療	<p>国家資格</p> <p>手、指などを用いてもむ・押す・さする・たたくなどといった手わざで血行を良くしたり、コリをほぐしたりする治療を行う。</p> <p>※あん摩；身体の中心から手足の末端に向かって、ツボの通り道である経路を刺激する治療法のこと。</p>
医師	医療	<p>国家資格</p> <p>医療のスペシャリスト的職業。人命救助、病気の治療の最先端を担う。大きく臨床医(病院に勤務したり、自ら診療所を開院したりする)と研究医(病気の原因を解明する基礎医学の研究を行う)に分かれている。</p>
移植コーディネーター	医療	<p>民間団体が認証する資格</p> <p>全国の病院から臓器提供者(ドナー)が現れたとの連絡を受けた時に、移植希望者(レシピエント)に対して説明し、承諾が得られた場合には、医学的検査の手配、移植チームとの連絡、臓器の運搬などの調整を行う。また、日常の業務としては、移植希望者の登録・受付、データの管理、臓器移植のPRなどを行う。</p>
医薬情報担当者(MR)	医療	<p>民間団体が認証する資格</p> <p>一般的に、製薬会社に勤務し医師に自社の薬の成分や使用方法、効能について説明をする。宣伝できない副効用や認可前の薬の情報など、カタログには記載されていない情報を伝達する職業。</p>
医療ソーシャルワーカー(MSW)	福祉	<p>※独自の資格はないが、社会福祉士と精神保健福祉士の資格を基礎とする。</p> <p>病院等の保健医療の場において、社会福祉の立場から患者やその家族が抱える経済的、心理的、社会的問題の解決のための調整や援助等を行い、社会復帰の促進を図る。</p>
介護福祉士	福祉	<p>国家資格</p> <p>老人や身体の不自由な人たちが、能力に応じて自立した生活が送れるように、入浴、排泄、食事、その他生活全般の介護を行う。また、当人や介護者に指導、助言を行う。</p>

職名	分野	仕事の内容
ガイドヘルパー	福祉	資格なし（※都道府県や政令指定都市が指定する養成研修を修了すればよい。ホームヘルパー2級の資格があると、研修が一部免除される場合がある） 介護を必要とする人の日常生活上必要な外出や、余暇活動等社会参加のための外出時の移動介護を行う。歩行や車いすの介助、あるいは外出先での食事の介護などを安全面に留意しながら行い、地域社会での自立した生活と社会参加を支援する。
カウンセラー	福祉	民間団体が認証する資格 何らかの問題を抱えている人から相談を受け、それに対して適切な援助を行う。診察・診療・投薬などの医療行為はできない。
家庭裁判所調査官	福祉	国家資格 家庭裁判所で扱う事件について、心理学、社会学、社会福祉学、教育学などの人間関係諸科学の知識や法律知識を活かして家庭に関する事件の当事者、少年事件の少年と保護者に直接面会し、必要に応じてカウンセリングなどを行い、その結果に意見を付けて裁判官に報告する。
看護師	医療	入院患者の生活全般の世話をしたり、診察や手術をする医師を補助する。具体的にはバイタルサイン（熱・血圧・脈拍など）の測定、注射や点滴、ガーゼ交換などの処置や食事、入浴、排泄の介助などを行う。
管理栄養士	保健	国家資格 病気に応じた健康指導、個人の身体状況、栄養状態に応じた栄養指導を行う。また、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧症などの生活習慣病や、食物アレルギー、拒食症などが増えているので、栄養カウンセリングに基づいた個人への栄養指導などを行う。
ケアワーカー (正式には介護福祉士)	福祉	介護福祉士の欄を参考

職名	分野	仕事の内容
ケースワーカー	福祉	国家資格 福祉事務所で相談援助を第一線で行う職員の通称。福祉を中心に生活の相談を受ける人の意味。生活保護を受けている人に対して相談にのったり、様々なはたらきかけを行ったりして問題解決を図る。
言語聴覚士	医療	国家資格 先天的または後天的な原因のため、言葉によるコミュニケーションに何らかの問題がある人に、聴力や音声機能、言語機能の検査および訓練や援助を行うほか、摂食や嚥下(飲み込むこと)の問題にも対応する。
作業療法士	医療	国家資格 病院やリハビリセンター、老人センター福祉施設などで、さまざまな作業を通して患者が失った社会適応能力を回復していく仕事。 患者の状態や目的に応じて作業を選び、精神面のケアをしながらリハビリテーションを進めていくことが役割。
歯科医師	医療	国家資格 歯学に基づいて傷病の予防、診断および治療、そして公衆衛生の普及を行う。
歯科衛生士	医療 保健	国家資格 歯科予防処置(歯垢、歯石の除去)を行う。治療はできないが、歯科診療補助として、治療器具の受け渡しなどを行い、歯科医師の治療をサポートする。また、患者の全身の健康状態、口の中の状態、自覚症状を把握する。そのほか、歯科保健指導として、正しい歯磨きの仕方を指導する。
視能訓練士	医療	国家資格 両眼視機能に障害を持つ人に対して、検査や訓練を通して機能を回復させていく。職場は、総合病院や大学病院など。

職名	分野	仕事の内容
社会福祉士	福祉	国家資格 身体・精神上の障害があり、日常生活を営むのに支障がある人たちの福祉に関する相談に応じ、助言・指導その他の援助を行う。主に、福祉事務所や児童相談所などの公的機関やシルバー産業において相談援助を行う。
准看護師	医療	都道府県知事資格 医師、歯科医師または看護師の指示を受けて看護業務を行なう。
助産師	医療 福祉	妊産婦の精神的、生理的、社会的な変化や諸問題に対応し、妊娠から育児まで、広く母性保健全般にわたって保健指導を行う。思春期の健康教育や性教育、成熟期の衛生教育、家族計画や妊娠・分娩・産褥・育児期における一連の指導、援助などを行う。
鍼灸師	医療	国家資格 ①鍼療；金属の細い針をツボに刺して刺激を与え、血液の流れをよくし、筋肉を和らげたり、神経を鎮めたりする治療。 ②灸療；もぐさを燃焼させ、その熱気で体調の回復を図る治療。
心療内科医	医療	国家資格 心身症やパニック障害、軽症の抑うつ症、摂食障害 PTSD(心的外傷後ストレス障害)などのこころの病気を診療し、治療にあたる。精神科とは違い、おもに身体に症状が出る心身症を対象にしている。患者の身体だけではなく、心理や社会面などもあわせて考慮しながら診断、治療に当たる。
診療放射線技師	医療	国家資格 医師の指示に基づいて、診断や治療のためにα線、β線、γ線、X線などさまざまな放射線を患者に照射し、その機器の管理を行う。
精神医学ソーシャルワーカー (精神保健福祉士・PSW)	福祉	国家資格（精神保健福祉士） 精神障害者を対象に、患者の自己決定権を侵害せず、治療上の問題解決や社会復帰のための助言や指導、日常生活のための訓練を行う。

職名	分野	仕事の内容
精神保健福祉士	福祉	精神医学ソーシャルワーカーの欄を参考
接骨医	医療	国家資格 「ほねつぎ」と呼ばれる、柔道から生まれた日本独特の治療技術で、手だけを使いねんざや打撲、脱臼、骨折などを治療する。
ソーシャルワーカー	福祉	病気やけがなどから生じる生活上の様々な問題に対して、治療者とは異なる立場から、不安や困りごとに対しての支援（ソーシャルワーク）を行う。 社会福祉士と同様。
保育士	福祉	国家資格 0～6歳までの幼児の保育をする。保育士の基本的な役割は家庭教育の不足を支援(食べる・寝る・遊ぶという子どもの生活)・補完することであり、親子の関係が円滑で愛情のあるものとなるように手助けをすることである。
ホームヘルパー	福祉	都道府県が認証する資格 高齢者や障害者の自律を支援するとともに、その人の生活リズムを維持し、生き生きとし充実した生活を送れるように日常の生活全般をバックアップする。食事、排泄、着替え、入浴などの身体介護や掃除、洗濯、買い物といった生活援助も行う。
保健師	保健	国家資格 おなかのなかの赤ちゃんからお年寄りまで、また、健康なヒトから病気や障害を持つ人までを対象に、健康教育、健康相談、健康診査、家庭訪問を通して、病気の予防、健康増進・維持・回復のための保健指導を行う。
保護観察官	福祉	国家資格 福祉の分野で犯罪に関わる代表的な職業。国家公務員の一種で、犯罪者や非行行為のあった成人・少年の背景を把握した上で、本人の更生や改善を助け、補導や援護をする。

職名	分野	仕事の内容
薬剤師	医療 保健	国家資格 薬局や病院に勤め、医師の処方箋に従って薬を調合する。他に、血液センター、製薬会社や大学、バイオビジネスの研究所などで働く薬剤師もいる。また、産業廃棄物処理施設などの事業の許認可や、土壌、水質検査、有害・有毒物質の検査などを行うこともある。
理学療法士	医療 福祉	国家資格 病気やケガが原因で、立つ、歩く、座るといった普段の動作が不自由になったり、身体に痛みを感じたりする人に、電気刺激、マッサージなどの物理的手段を加えて、基本的運動能力を回復させる。
リフレクソロジスト	福祉	民間資格 身体の各部分に反応する足裏の反射作用を利用した療法で、ストレスや肩こり、冷え性、肌荒れなどの不調を改善しようとするもの。このような行為を治療として行うことはできない。
臨床検査技師	医療	国家資格 病院などの医療機関において色々な臨床検査(患者の状態を評価するための検査)を行う技術者。具体的には、血液検査、尿検査などの検体検査、心電図、脳波などの生理学検査を行う。
臨床心理士	保健 医療 福祉	民間資格 臨床心理学の知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う「心の専門家」。来談する人の特徴に応じて、さまざまな臨床心理学的技法を用い、心の問題改善に向けて援助を行います。職域は幅広く、スクールカウンセラー、犯罪被害者支援、子育て支援、高齢者支援などがある。